

第3編 男女共同参画に関する高校生意識調査

I 調査方法

調査対象：市内の高等学校の2年生

有効回収数：413人（女性183人 男性207人 無回答23人）

実施時期：令和4年11月

II 調査結果のまとめ（集計・分析）

1. あなた自身について

- ・女性と男性の割合は、男性がやや多くなっています。

2. 男女平等と性別役割分担意識について

（男女平等の意識）

- ・男女とも5割以上が平等としている項目は「職場（アルバイトを含む）」、「自治会などの地域活動」、「学校・教育の場」となっています。
- ・男性が5割以上で女性が5割未満の項目は、「家庭生活の場」、「社会通念・慣習やしきたり」であり、男女で差がみられます。
- ・男女とも平等が5割未満の項目は、「雇用の機会や働く分野」、「政治・経済活動への参画」、「社会全体」であり、女性の方が各項目で男性よりも不平等と感じています。

（家庭での男女の役割分担）

- ・「男は仕事、女は家庭」という考え方については、性別に関わらず否定的にとらえている割合が高く、否定的にとらえている割合は男性より女性の方が高くなっています。
- ・現状、家事の分担については、「ほとんど母親」の割合が最も高く、次いで「どちらかと言えば母親」となっています。「母親と父親同じくらい」の割合は低く、家庭での男女共同参画は進んでいないことがうかがえます。

（女性と職業）

- ・女性が仕事をするに対して、性別に関わらず「女性の思うとおりにするのがよい」の割合が最も高く、女性が仕事をすることを否定する意見はほとんどありません。

（女性が仕事をする事―①肯定的回答の理由）

- ・女性は「女性も働くことで社会とのつながりを持てると思うから」の割合が高く、男性は「夫婦で働いた方が多くの収入を得られるから」の割合が高くなっています。

（女性が仕事をする事―②否定的回答の理由）

- ・女性は男性よりも家庭を前提として仕事を捉え、両立の難しさを感じています。

(仕事選択で重視する点)

- ・ 仕事を選ぶときに重視することは、性別に関わらず「収入が安定していること」の割合が高く、「職場の雰囲気が良いこと」や「自分の興味や好み」の割合も比較的高くなっています。また、女性の方が男性よりも「育児や介護に対しての支援制度が整っていること」に関心が高くなっています。

(家事・育児の分担)

- ・ 将来の家事・育児の分担は、性別に関わらず「夫婦で同じ程度の割合」を望んでいる割合が高くなっています。

(家事・育児の分担－①きっかけとなった人物)

- ・ きっかけとなった人物は、性別に関わらず、「母」の割合が最も高くなっています。

(仕事の分担)

- ・ 将来の仕事の分担は、性別に関わらず、「夫婦で同じ程度の割合」が高くなっていますが、男性よりも女性の割合が高くなっています。

(仕事の分担－①きっかけとなった人物)

- ・ 男性は「父」、女性は「母」の割合が最も高くなっています。

(介護の分担)

- ・ 性別に関わらず、「夫婦で同じ程度の割合」が最も高くなっています。

(介護の分担－①きっかけとなった人物)

- ・ 性別に関わらず、「母」の割合が最も高くなっています。

3. デートDVについて

- ・ 「デートDV」の認知率は、女性8割、男性6割と高くなっています。
- ・ 恋人との関係について、男性より女性の方が「思いどおりにならない」「束縛されている」と感じている割合が高くなっていますが、優位性については女性の割合が高い結果となっています。
- ・ 恋人との間で起こることについて、デートDVと判断した割合が男女とも6割以上の項目は、「家族や友だちとのつきあいや連絡を監視したり、制限する」、「キスや性的な行為を同意なく一方的にする」、「性的な画像や動画などを勝手に撮ったりSNSなどに載せたりする」、「大声でどなる」、「なぐるふりをしたり刃物を突きつけておどす」、「別れるなら死ぬ」などと言っておどす、「物をこわしたり物を投げる」、「なぐるける突きとばす」となっています。
- ・ 「自分を常に優先してほしいと言う」、「しょっちゅう電話やメールをしてきたり、どこで誰と会っているか繰り返し聞く」、「こんな服を着て」と服装などのチェックや指示をする」、「体型のことをあれこれ言う」、「常に相手の考えを聞かずに、物事を計画したり決めたりする」などの自己中心的な事柄については、デートDVとしての認識が低くなっています。

- ・相手にされた経験については、各項目で1割未満となっています。
- ・相手にしたことがある経験については性別に関わらず、割合が低くなっています。
- ・デートDVの経験者の6割以上は相談していません。相談相手は性別に関わらず「友人、知人、近所の人」の割合が最も高くなっています。
- ・相談しなかった理由として、「相談するほどたいしたことでもないと思った」が性別に関わらず最も高くなっています。また、女性は男性よりも自分の問題（我慢すればよい、自分に非がある）として捉えている割合が高くなっています。デートDVについて、人権侵害であることを正しく啓発していくことが必要です。

4. 用語について

(男女共同参画に関する言葉の認知率)

- ・「セクハラ（セクシュアル ハラスメント）」、「ジェンダー」、「LGBT」の認知率は高くなっています。
- ・「女性活躍推進法」、「JKビジネス」、「性別役割分担意識」は、男女とも認知率が低くなっています。

5. 自分への評価について

(自己評価)

- ・自分のことについて、「好き」、「どちらかといえば好き」と答えた割合は、前回調査と比較すると増加しています。性別で見ると、女性の方が低くなっています。

(大人からの保護)

- ・周りのおとなから大切にされていると思うかについては、性別に関わらず、「大切にされていると思う」、「どちらかといえば大切にされている」を合わせた割合が7割以上となっています。
- ・自己肯定感については、前回調査と比較すると改善しているものの、男性より女性の割合が低くなっており、性差による違いがみられます。

(相談相手)

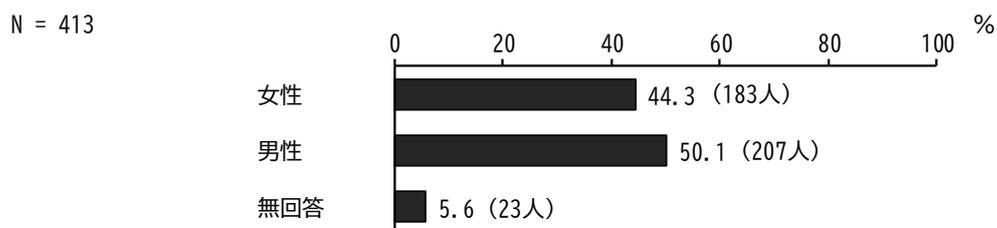
- ・性別に関わらず、主な相談相手は「友だち」が最も高く、次に「母」の順となっています。

Ⅲ 調査結果

1 あなた自身について

問1 あなたの性別を記入してください。

「女性」の割合が44.3%、「男性」の割合が50.1%となっています。



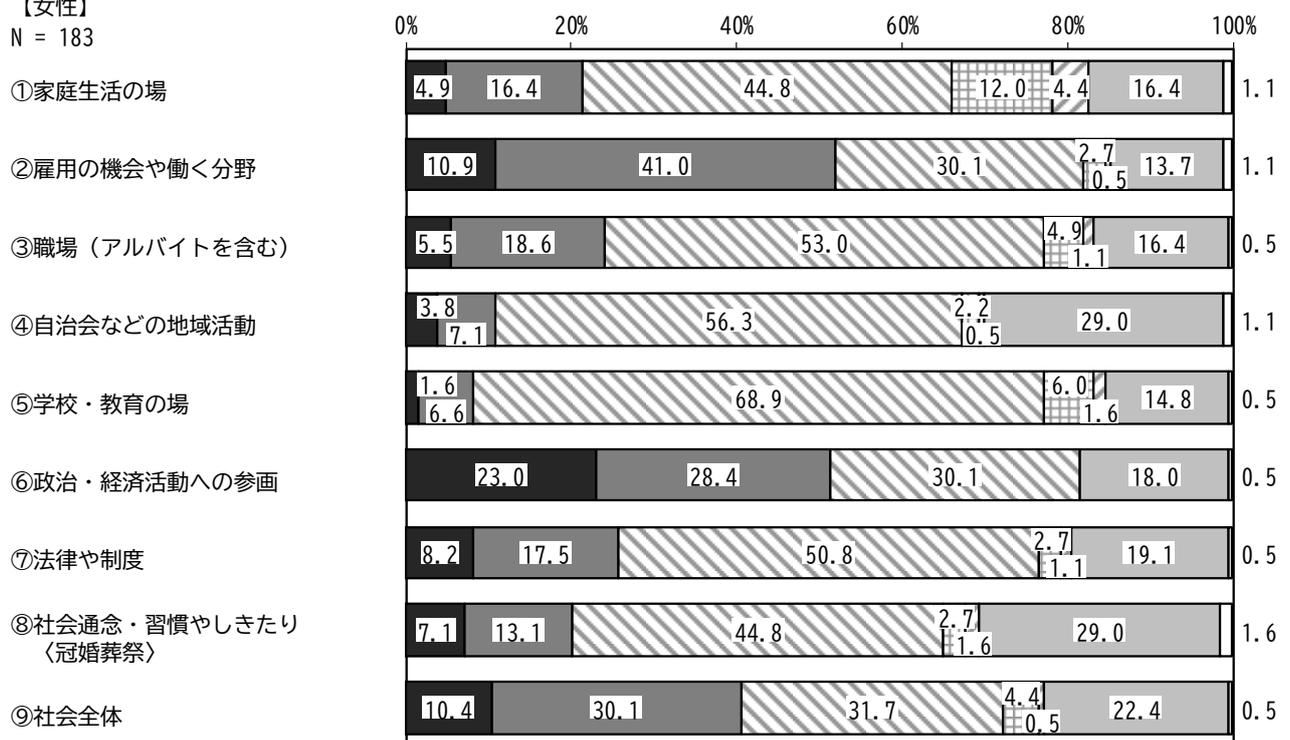
2 男女平等と性別役割分担意識について

問2 あなたは次の各分野において、男女がどの程度、平等になっていると思われますか。(①～⑨の項目について、あてはまるものそれぞれ1つに○)

女性では『②雇用の機会や働く分野』、『⑥政治・経済活動への参画』で「男性の方が優遇されていると思う」と「どちらかといえば男性の方が優遇されていると思う」を合わせた“男性優遇”の割合が高くなっています。また、『⑤学校・教育の場』で「平等だと思う」の割合が高くなっています。

- 男性の方が優遇されていると思う
- どちらかといえば男性の方が優遇されていると思う
- ▨ 平等だと思う
- ▨ どちらかといえば女性の方が優遇されていると思う
- 女性の方が優遇されていると思う
- わからない
- 無回答

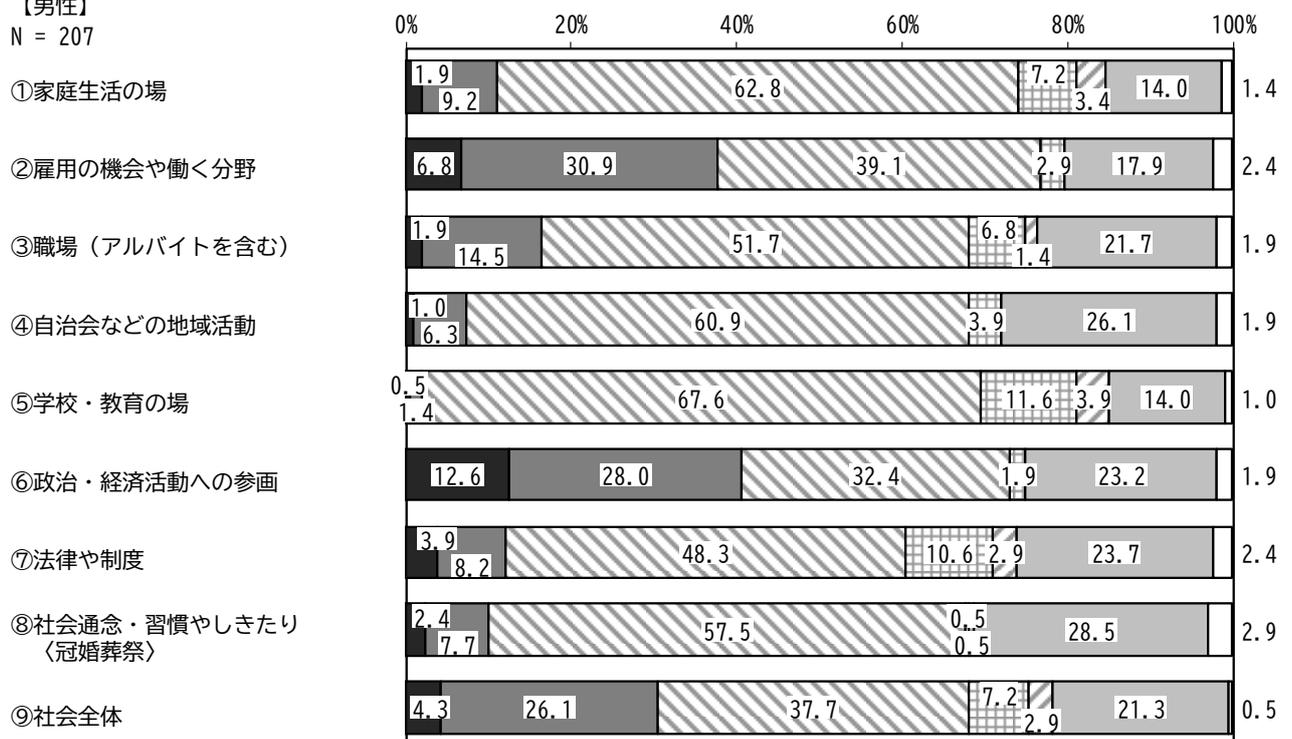
【女性】
N = 183



男性では『⑥政治・経済活動への参画』で“男性優遇”の割合が高くなっています。また、『①家庭生活の場』、『⑤学校・教育の場』で「平等だと思ふ」の割合が高くなっています。

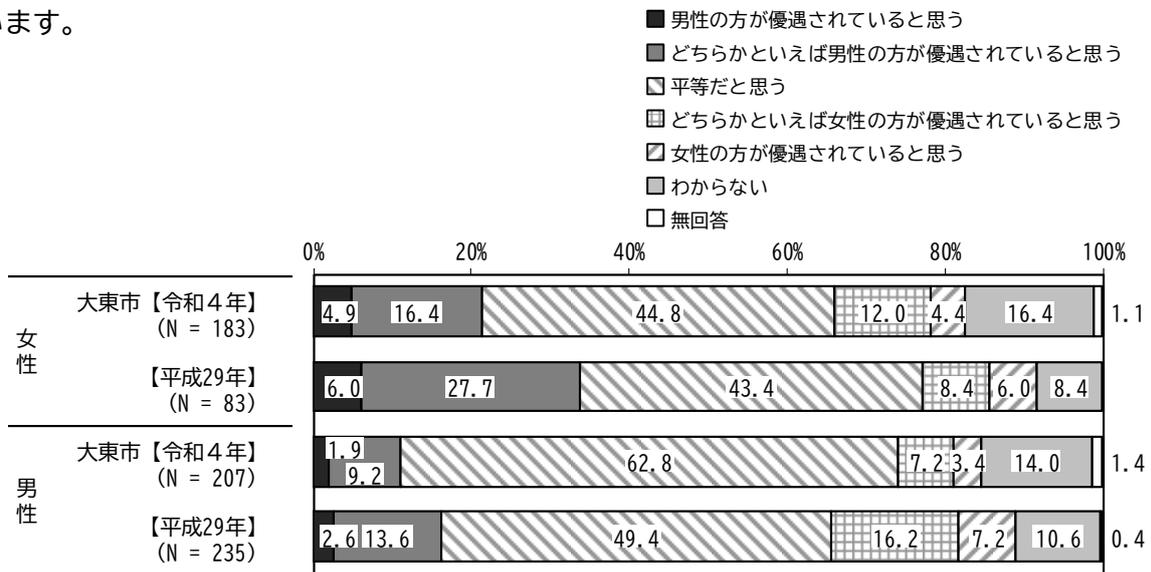
- 男性の方が優遇されていると思う
- どちらかといえば男性の方が優遇されていると思う
- ▨ 平等だと思ふ
- ▨ どちらかといえば女性の方が優遇されていると思う
- 女性の方が優遇されていると思う
- わからない
- 無回答

【男性】
N = 207



①家庭生活の場

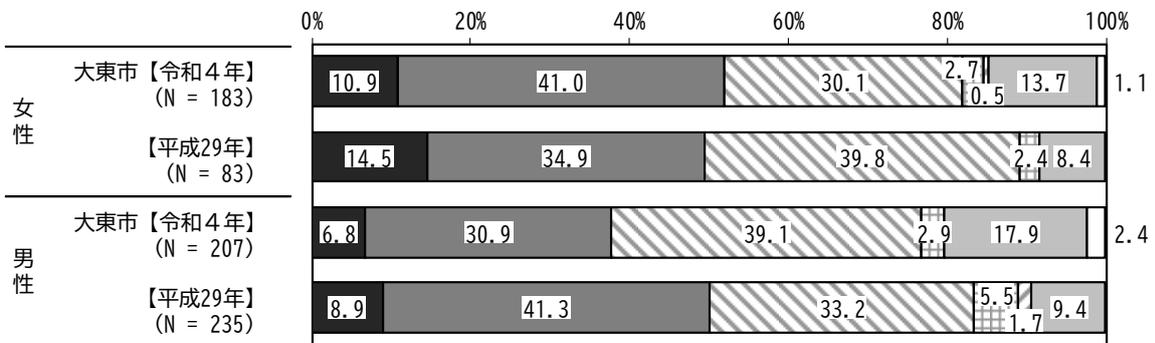
平成 29 年度調査と比較すると、女性は「わからない」の割合が増加しています。一方、「どちらかといえば男性の方が優遇されていると思う」の割合が減少しています。男性は「平等だと思う」の割合が増加しています。一方、「どちらかといえば女性の方が優遇されていると思う」の割合が減少しています。



②雇用の機会や働く分野

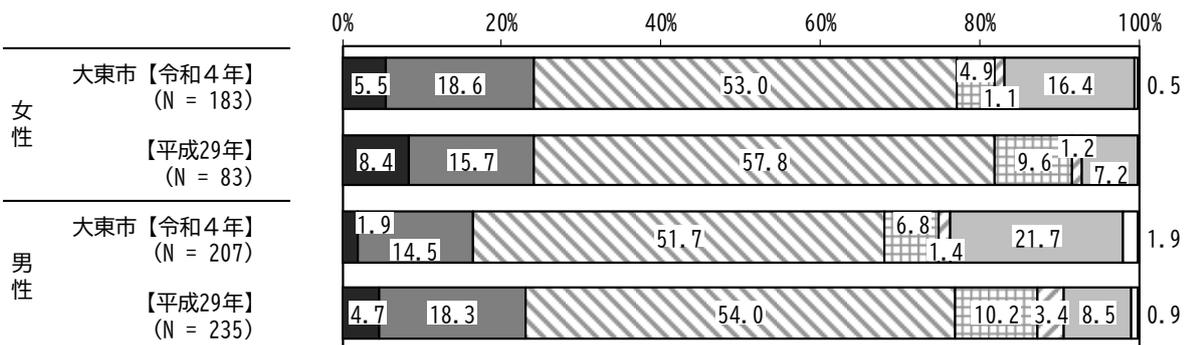
平成 29 年度調査と比較すると、女性は「どちらかといえば男性の方が優遇されていると思う」、「わからない」の割合が増加しています。一方、「平等だと思う」の割合が減少しています。

男性は「平等だと思う」、「わからない」の割合が増加しています。一方、「どちらかといえば男性の方が優遇されていると思う」の割合が減少しています。



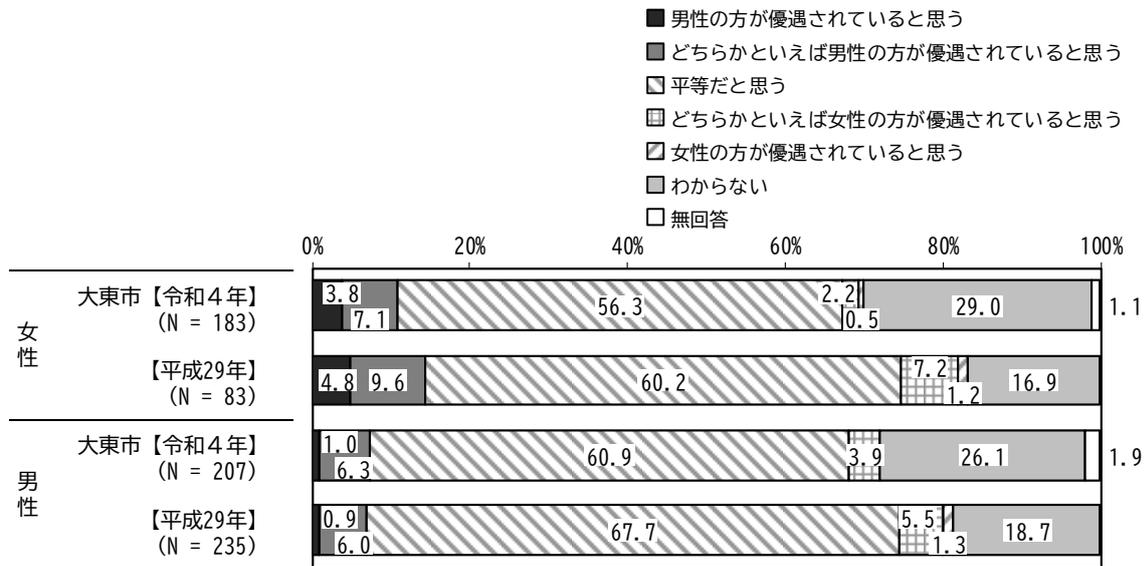
③職場（アルバイトを含む）

平成 29 年度調査と比較すると、性別に関わらず、「わからない」の割合が増加しています。



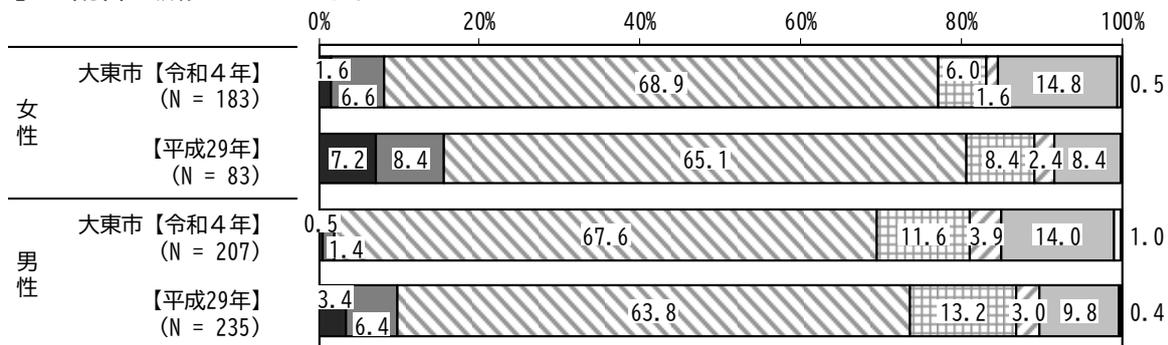
④自治会などの地域活動

平成 29 年度調査と比較すると、女性は「わからない」の割合が増加しています。男性は「わからない」の割合が増加しています。一方、「平等だと思う」の割合が減少しています。



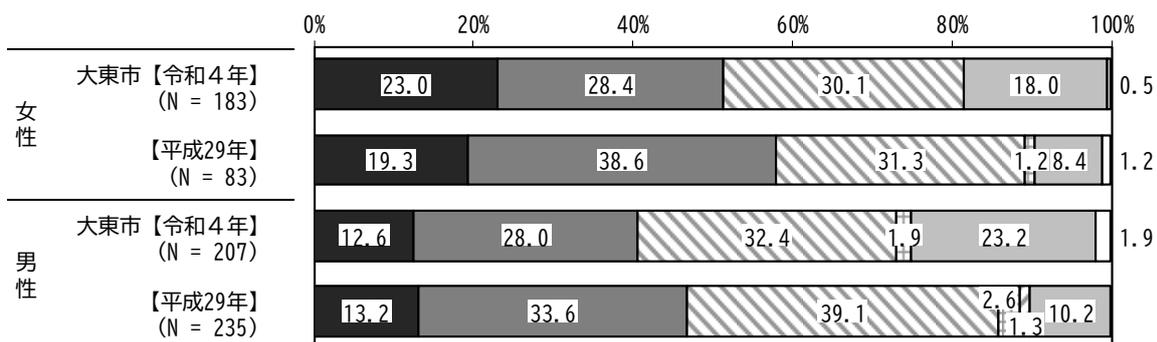
⑤学校・教育の場

平成 29 年度調査と比較すると、女性は「わからない」の割合が増加しています。一方、「男性の方が優遇されていると思う」の割合が減少しています。男性は「どちらかといえば男性が優遇されている」の割合が減少しています。



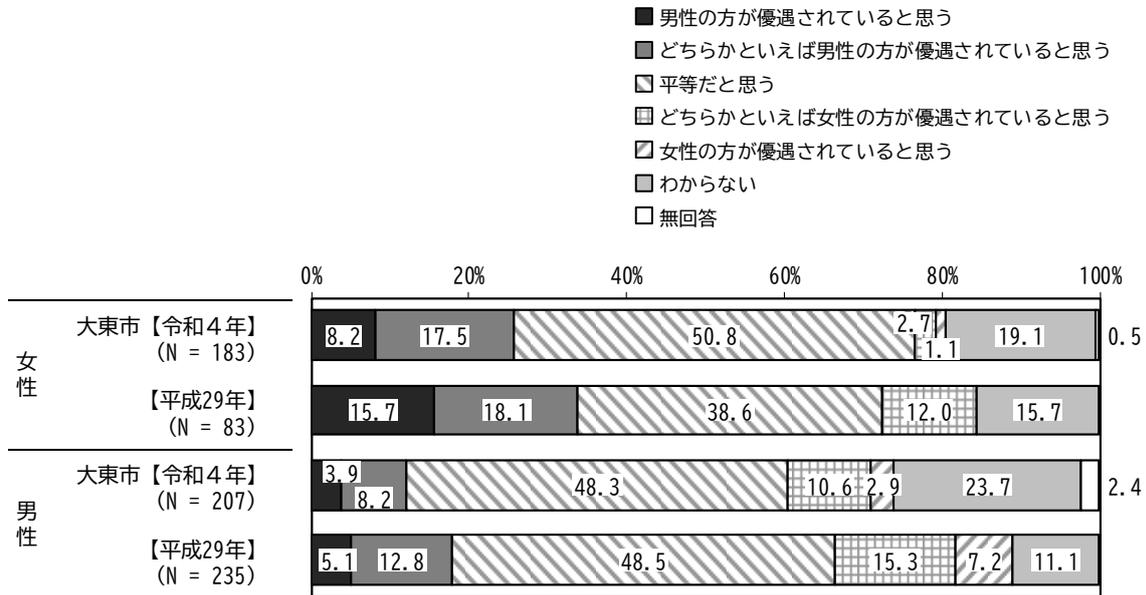
⑥政治・経済活動への参画

平成 29 年度調査と比較すると、女性は「わからない」の割合が増加しています。一方、「どちらかといえば男性の方が優遇されていると思う」の割合が減少しています。男性は「わからない」の割合が増加しています。一方、「どちらかといえば男性の方が優遇されていると思う」、「平等だと思う」の割合が減少しています。



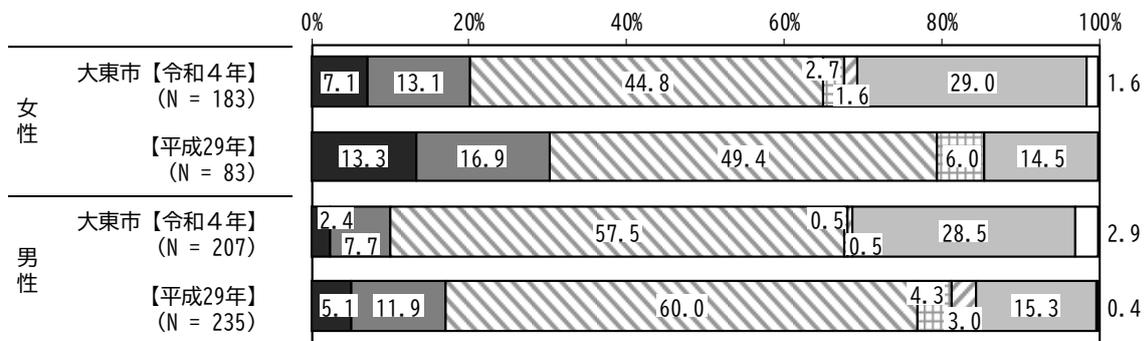
⑦法律や制度

平成 29 年度調査と比較すると、女性は「平等だと思う」の割合が増加しています。一方、「男性の方が優遇されていると思う」、「どちらかといえば女性の方が優遇されていると思う」の割合が減少しています。男性は「わからない」の割合が増加しています。



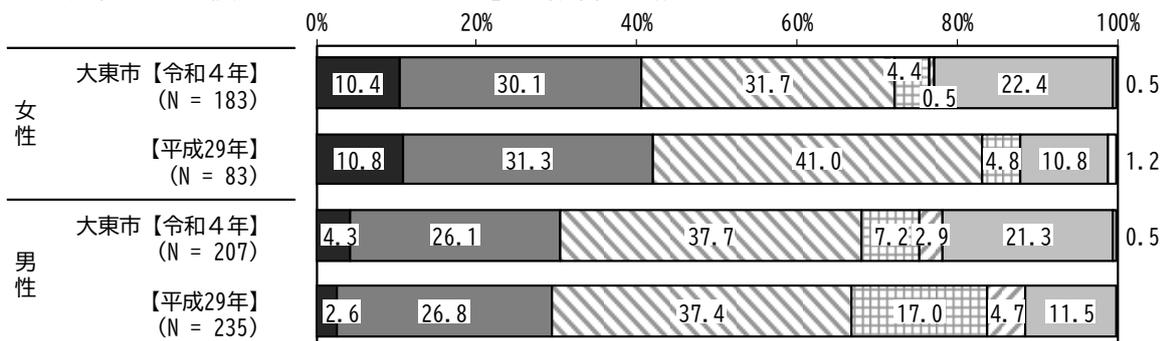
⑧社会通念・習慣やしきたり〈冠婚葬祭〉

平成 29 年度調査と比較すると、女性は「わからない」の割合が増加しています。一方、「男性の方が優遇されていると思う」の割合が減少しています。男性は「わからない」の割合が増加しています。



⑨社会全体

平成 29 年度調査と比較すると、女性は「わからない」の割合が増加しています。一方、「平等だと思う」の割合が減少しています。男性は「わからない」の割合が増加しています。一方、「どちらかといえば女性の方が優遇されていると思う」の割合が減少しています。

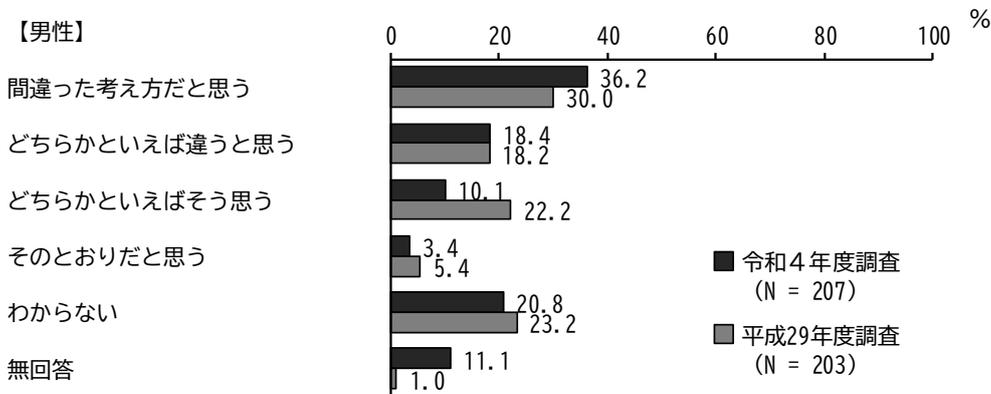
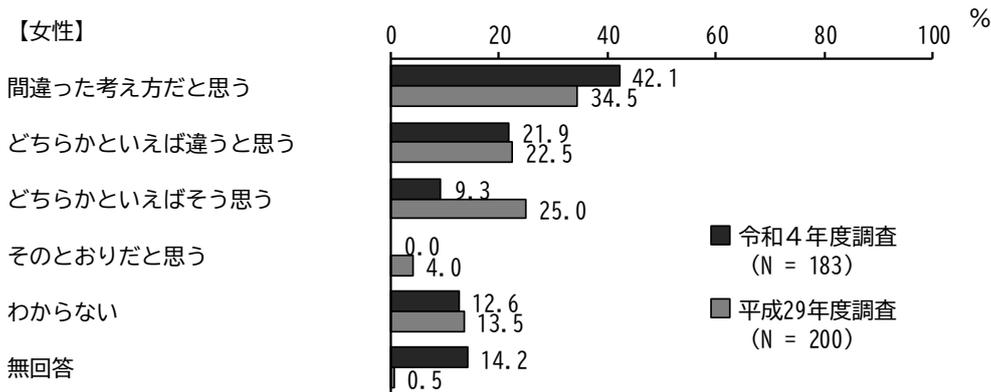


問3 「男は仕事、女は家庭」という性別役割分担の考え方について、あなた自身はどう思いますか。(あてはまるもの1つに○)

女性では、「間違った考え方だと思う」の割合が42.1%と最も高く、次いで「どちらかといえば違うと思う」の割合が21.9%、「わからない」の割合が12.6%となっています。

男性では、「間違った考え方だと思う」の割合が36.2%と最も高く、次いで「わからない」の割合が20.8%、「どちらかといえば違うと思う」の割合が18.4%となっています。

平成29年度調査と比較すると、性別に関わらず、「間違った考え方だと思う」の割合が増加しています。一方、「どちらかといえばそう思う」の割合が減少しています。



問3-① 【問3で「1. 間違っただ考え方だと思う」や「2. どちらかといえば違うと思う」と答えた人に聞きます。】

特にそう思う理由はなんですか。(特にあてはまるもの3つにまでに○)

女性では、「固定的な男性と女性の役割分担の意識を押しつけるべきではないから」の割合が74.4%と最も高く、次いで「男女平等に反すると思うから」の割合が53.0%、「男性も女性も働いた方が、多くの収入を得られると思うから」の割合が29.1%となっています。

男性では、「固定的な男性と女性の役割分担の意識を押しつけるべきではないから」の割合が72.6%と最も高く、次いで「男女平等に反すると思うから」の割合が40.7%、「男性も女性も働いた方が、多くの収入を得られると思うから」の割合が27.4%となっています。

単位：%

区分	N (件)	固定的な男性と女性の役割分担の意識を押しつけるべきではないから	女性が働いて能力を發揮した方が、個人や社会にとって良いと思うから	男性も女性も働いた方が、多くの収入を得られると思うから	男女平等に反すると思うから	家事・育児・介護と両立しながら、女性が働き続けることは可能だと思うから	自分の両親もともに働いていたから	その他	わからない	無回答
全体	235	73.2	14.0	28.1	46.8	8.5	22.1	7.7	1.3	—
女性	117	74.4	12.8	29.1	53.0	12.0	24.8	8.5	1.7	—
男性	113	72.6	15.9	27.4	40.7	5.3	20.4	7.1	0.9	—

高校生 問3-① その他回答
お仕事をしたい女性もいるのに「家にいて家事をしろ」というのはその人の自由もうばってしまうのではないかと思ったから。
男は仕事、女は家庭という考えになるのが分からない
2人でやれば負担が減るから
自分に適している分野ごとに担任をわりふればよいと思うから
考えが古い
社会全体で今それが普通になってるから。
きめつけるのではなく、男女関係なく自分がとくいなことをしたらいい
当番制にするべきだと思いました
仕事に性別は全く関係ない
同じ人間なのに性別で分ける意味が分からない

その他9件

問3-② 【問3で「3. どちらかといえばそう思う」や「4. そのとおりだと思う」と答えた人に聞きます。】

特にそう思う理由はなんですか。(特にあてはまるもの3つにまでに○)

女性では、「家事・育児・介護と両立しながら、女性が働き続けることは大変だと思うから」の割合が76.5%と最も高く、次いで「女性が家庭を守った方が、子どもの成長などにとって良いと思うから」の割合が41.2%、「男性が外で働いた方が、多くの収入を得られると思うから」の割合が35.3%となっています。

男性では、「家事・育児・介護と両立しながら、女性が働き続けることは大変だと思うから」の割合が50.0%と最も高く、次いで「女性が家庭を守った方が、子どもの成長などにとって良いと思うから」の割合が28.6%、「わからない」の割合が21.4%となっています。

単位：%

区分	N (件)	女性が家庭を守った方が、子どもの成長などにとって良いと思うから	家事・育児・介護と両立しながら、女性が働き続けることは大変だと思うから	男性が外で働いた方が、多くの収入を得られると思うから	日本の伝統的な家族のあり方だと思うから	自分の両親も役割分担していたから	その他	わからない	無回答
全体	46	34.8	60.9	23.9	19.6	10.9	4.3	15.2	2.2
女性	17	41.2	76.5	35.3	23.5	11.8	-	5.9	-
男性	28	28.6	50.0	17.9	17.9	7.1	7.1	21.4	3.6

高校生 問3-② その他回答

男性の方が任される仕事量が多いから

女性が社会進出をすると、少子高齢化、晩婚化がどんどん進むから

問4 あなたの家では、食事の準備（料理）や、そうじ洗たくのような家事は、主に誰がやっていますか。（あてはまるもの1つに○）

女性では、「ほとんど母親」の割合が 61.2%と最も高く、次いで「どちらかといえば母親」の割合が 13.1%となっています。

男性では、「ほとんど母親」の割合が 65.2%と最も高く、次いで「どちらかといえば母親」の割合が 14.5%となっています。

単位：%

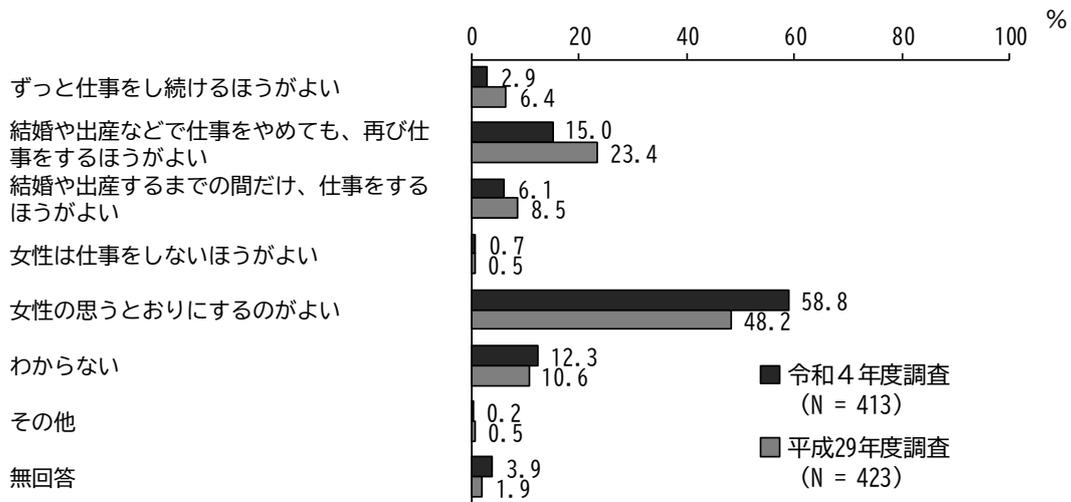
区分	N (件)	ほとんど母親	どちらかといえば母親	どちらかといえば父親	ほとんど父親	母親と父親同じくらい	その他の人	無回答
全体	413	62.5	13.1	0.5	1.7	9.4	7.7	5.1
女性	183	61.2	13.1	1.1	1.6	10.9	8.7	3.3
男性	207	65.2	14.5	—	1.9	8.7	4.8	4.8

問5 女性が仕事をするについて、あなた自身はどのように考えますか。(あてはまるもの1つに○)

「女性の思うとおりにするのがよい」の割合が58.8%と最も高く、次いで「結婚や出産などで仕事をやめても、再び仕事をするほうがよい」の割合が15.0%、「わからない」の割合が12.3%となっています。

平成29年度調査と比較すると、「女性の思うとおりにするのがよい」の割合が増加しています。一方、「結婚や出産などで仕事をやめても、再び仕事をするほうがよい」の割合が減少しています。

【経年】



【性別】

性別で見ると、女性に比べ男性で「結婚や出産などで仕事をやめても、再び仕事をするほうがよい」の割合が高くなっています。

単位：%

区分	N (件)	ずっと仕事をし続けるほうがよい	結婚や出産などで仕事をやめても、再び仕事をするほうがよい	結婚や出産するまでの間だけ、仕事をするほうがよい	女性は仕事をしないほうがよい	女性の思うとおりにするのがよい	わからない	その他	無回答
全体	413	2.9	15.0	6.1	0.7	58.8	12.3	0.2	3.9
女性	183	3.3	20.2	7.7	0.5	57.4	8.2	0.5	2.2
男性	207	2.4	11.1	4.8	1.0	63.8	12.6	—	4.3

高校生 問5 その他回答

女性の意見を尊重すべきであると思う

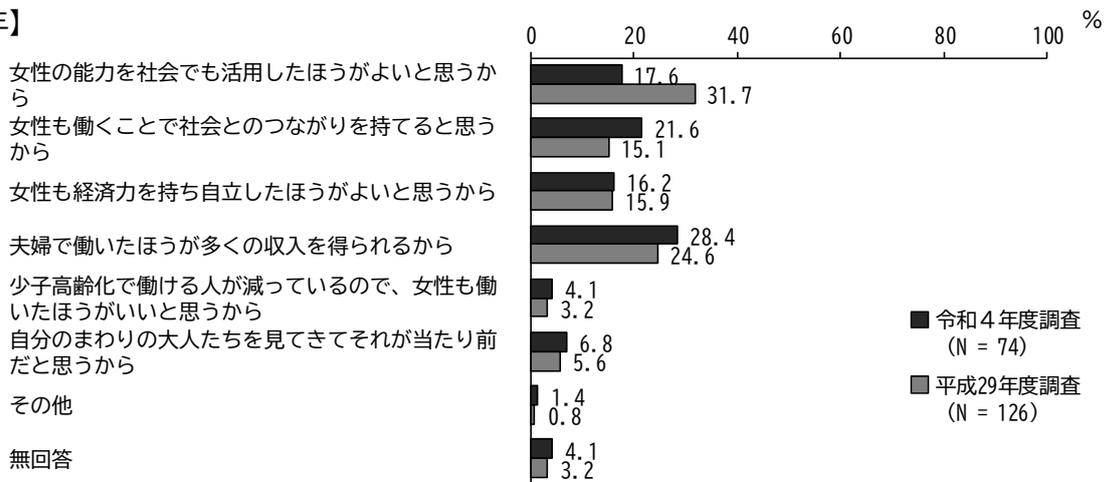
問5-① 【問5で「1. ずっと仕事をし続けるほうがよい」や「2. 結婚や出産などで仕事をやめても、再び仕事をするほうがよい」と答えた人に聞きます。】

それはどのような理由からですか。(あてはまるもの1つに○)

「夫婦で働いたほうが多くの収入を得られるから」の割合が28.4%と最も高く、次いで「女性も働くことで社会とのつながりを持てると思うから」の割合が21.6%、「女性の能力を社会でも活用したほうがよいと思うから」の割合が17.6%となっています。

平成29年度調査と比較すると、「女性も働くことで社会とのつながりを持てると思うから」の割合が増加しています。一方、「女性の能力を社会でも活用したほうがよいと思うから」の割合が減少しています。

【経年】



【性別】

性別で見ると、女性では、「女性も働くことで社会とのつながりを持てると思うから」、男性では、「夫婦で働いたほうが多くの収入を得られるから」の割合が最も高くなっています。

単位：%

区分	N (件)	女性の能力を社会でも活用したほうがよいと思うから	女性も働くことで社会とのつながりを持てると思うから	女性も経済力を持ち自立したほうがよいと思うから	夫婦で働いたほうが多くの収入を得られるから	少子高齢化で働ける人が減っているので、女性も働いたほうがよいと思うから	自分のまわりの大人たちを見てきてそれが当たり前だと思うから	その他	無回答
全体	74	17.6	21.6	16.2	28.4	4.1	6.8	1.4	4.1
女性	43	9.3	25.6	23.3	23.3	4.7	9.3	-	4.7
男性	28	28.6	17.9	7.1	35.7	3.6	3.6	3.6	-

高校生 問5-① その他回答

女性の方が頭よさそう

男の人の経済力にたよらずに生きるため

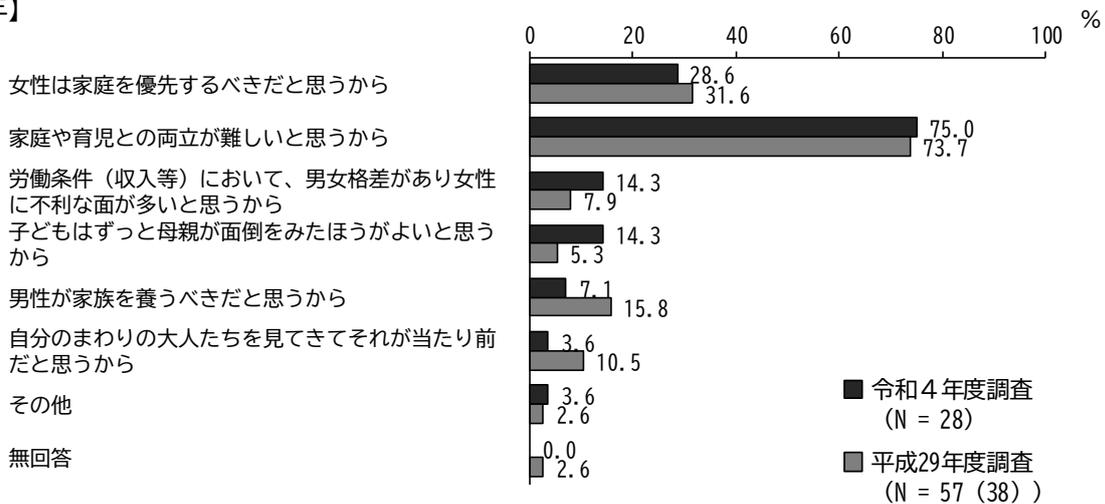
問5-② 【問5で「3. 結婚や出産するまでの間だけ、仕事をするほうがよい」や「4. 女性は仕事をしないほうがよい」と答えた人に聞きます。】

それはどのような理由からですか。(あてはまるものすべてに○)

「家庭や育児との両立が難しいと思うから」の割合が75.0%と最も高く、次いで「女性は家庭を優先するべきだと思うから」の割合が28.6%、「労働条件（収入等）において、男女格差があり女性に不利な面が多いと思うから」、「子どもはずっと母親が面倒をみたほうがよいと思うから」の割合が14.3%となっています。

平成29年度調査と比較すると、「労働条件（収入等）において、男女格差があり女性に不利な面が多いと思うから」、「子どもはずっと母親が面倒をみたほうがよいと思うから」の割合が増加しています。一方、「男性が家族を養うべきだと思うから」、「自分のまわりの大人たちを見てきてそれが当たり前だと思うから」の割合が減少しています。

【経年】



【性別】

性別で見ると、男性で「女性は家庭を優先するべきだと思うから」の割合が高くなっています。

単位：%

区分	N (件)	女性は家庭を優先するべきだと思うから	家庭や育児との両立が難しいと思うから	労働条件（収入等）において、男女格差があり女性に不利な面が多いと思うから	子どもはずっと母親が面倒をみたほうがよいと思うから	男性が家族を養うべきだと思うから	自分のまわりの大人たちを見てきてそれが当たり前だと思うから	その他	無回答
全体	28	28.6	75.0	14.3	14.3	7.1	3.6	3.6	-
女性	15	13.3	86.7	20.0	13.3	-	6.7	-	-
男性	12	41.7	58.3	8.3	8.3	16.7	-	8.3	-

高校生 問5-② その他回答

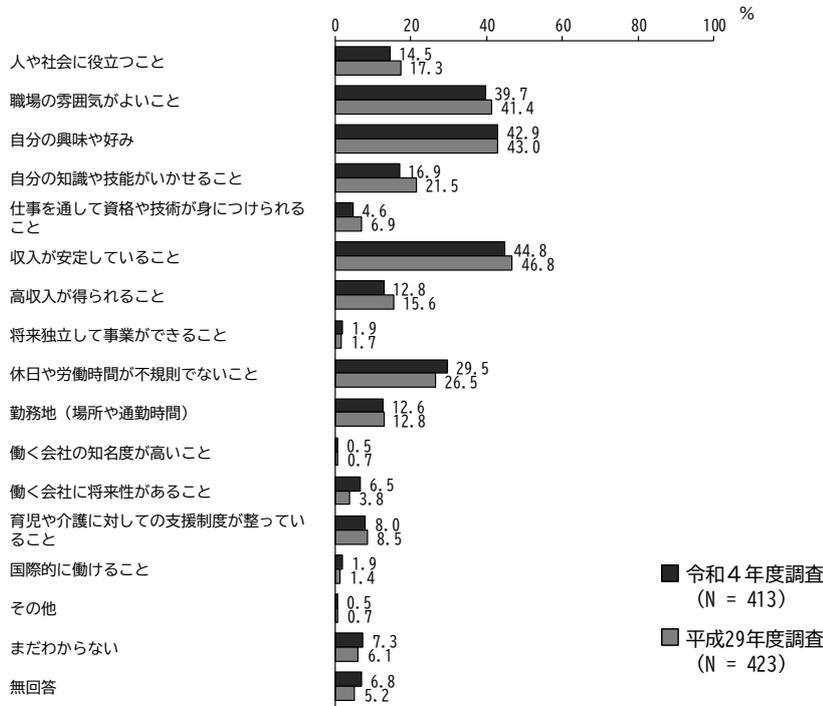
子にたくさんの愛情を注ぐべきだから

問6 あなたが、仕事を選ぶときに重視することは何ですか。(あてはまるものに○は3つまで)

「収入が安定していること」の割合が 44.8%と最も高く、次いで「自分の興味や好み」の割合が 42.9%、「職場の雰囲気がよいこと」の割合が 39.7%となっています。

平成 29 年度調査と比較すると、大きな変化はみられません。

【経年】



【性別】

性別で見ると、大きな差はみられません。

単位：%

区分	N (件)	人や社会に役立つこと	職場の雰囲気がよいこと	自分の興味や好み	自分の知識や技能がいかせること	仕事を通して資格や技術が身につけられること	収入が安定していること	高収入が得られること	将来独立して事業ができること
全体	413	14.5	39.7	42.9	16.9	4.6	44.8	12.8	1.9
女性	183	13.7	43.7	45.4	18.6	8.2	49.2	9.3	1.6
男性	207	16.4	38.2	42.0	16.4	1.4	43.0	16.4	1.9

区分	休日や労働時間が不規則でないこと	勤務地（場所や通勤時間）	働く会社の知名度が高いこと	働く会社に将来性があること	育児や介護に対する支援制度が整っていること	国際的に働けること	その他	まだわからない	無回答
全体	29.5	12.6	0.5	6.5	8.0	1.9	0.5	7.3	6.8
女性	28.4	14.8	—	5.5	12.6	1.6	—	4.9	5.5
男性	32.9	10.6	1.0	7.7	4.3	1.9	0.5	8.2	6.3

高校生 問6 その他回答

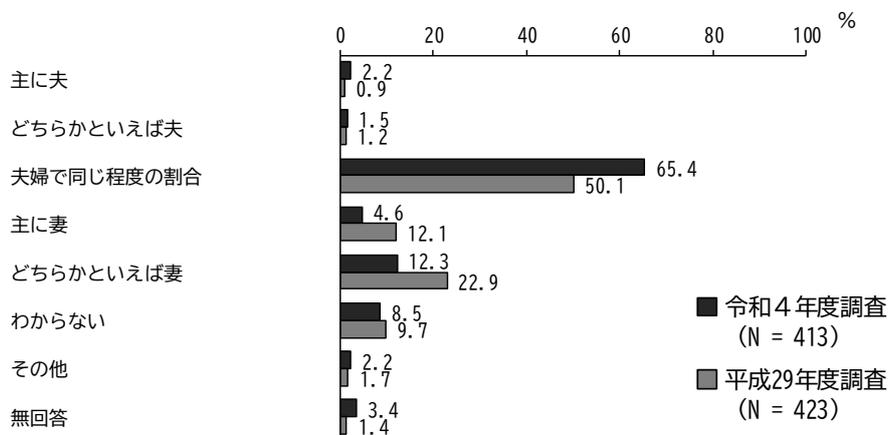
たのしいとこ

問7 あなたが将来、家庭を持った場合、家事・育児は誰がすることが望ましいと思いますか。(あてはまるもの1つに○)

「夫婦で同じ程度の割合」の割合が 65.4%と最も高く、次いで「どちらかといえば妻」の割合が 12.3%となっています。

平成 29 年度調査と比較すると、「夫婦で同じ程度の割合」の割合が増加しています。一方、「主に妻」、「どちらかといえば妻」の割合が減少しています。

【経年】



【性別】

性別で見ると、男性に比べ女性で「夫婦で同じ程度の割合」の割合が高くなっています。

単位：%

区分	N (件)	主に夫	夫どちらかといえば	夫婦で同じ程度の割合	主に妻	妻どちらかといえば	わからない	その他	無回答
全体	413	2.2	1.5	65.4	4.6	12.3	8.5	2.2	3.4
女性	183	0.5	1.6	71.6	4.4	15.3	3.8	0.5	2.2
男性	207	2.9	0.5	63.8	4.8	11.1	10.6	2.4	3.9

高校生 問7 その他回答

結婚願望ない

場合による

全員

したいほうがすることが最も望ましいと思う

仕事のわりあい

そのときにできる人

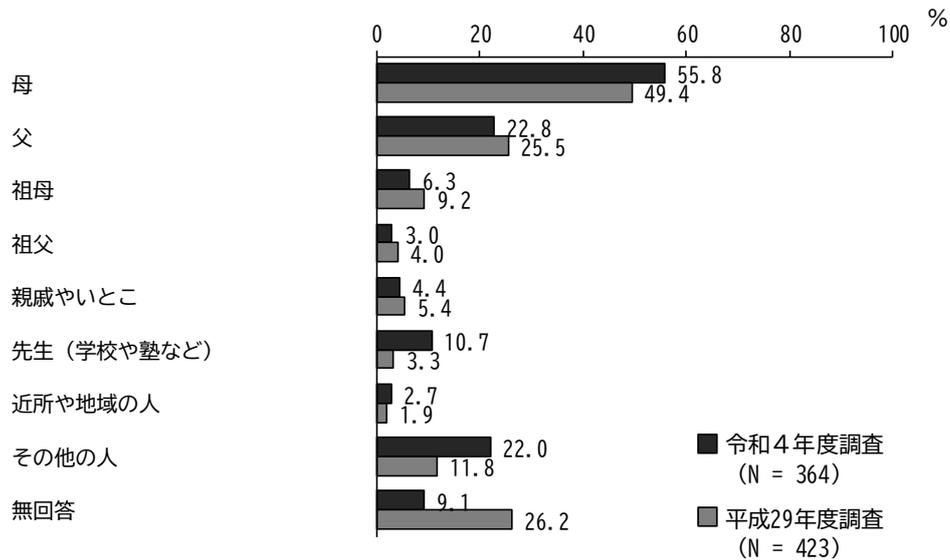
その他3件

問8 問7で回答された考え方のきっかけとなったのは、誰の言葉や行為ですか。(あてはまるものすべてに○)

「母」の割合が55.8%と最も高く、次いで「父」の割合が22.8%、「その他の人」の割合が22.0%となっています。

平成29年度調査と比較すると、「母」、「先生（学校や塾など）」、「その他の人」の割合が増加しています。

【経年】



【性別】

性別で見ると、大きな差はみられません。

単位：%

区分	N (件)	母	父	祖母	祖父	親戚やいとこ	先生 (学校や塾など)	近所や地域の人	その他の人	無回答
全体	364	55.8	22.8	6.3	3.0	4.4	10.7	2.7	22.0	9.1
女性	172	58.1	21.5	5.8	2.3	3.5	11.0	2.9	18.0	10.5
男性	177	53.7	24.3	6.8	3.4	5.1	10.2	2.8	24.9	8.5

高校生 問8 その他回答
テレビ
自分がそう思ったから
YouTube
社会の風潮
メディア
本

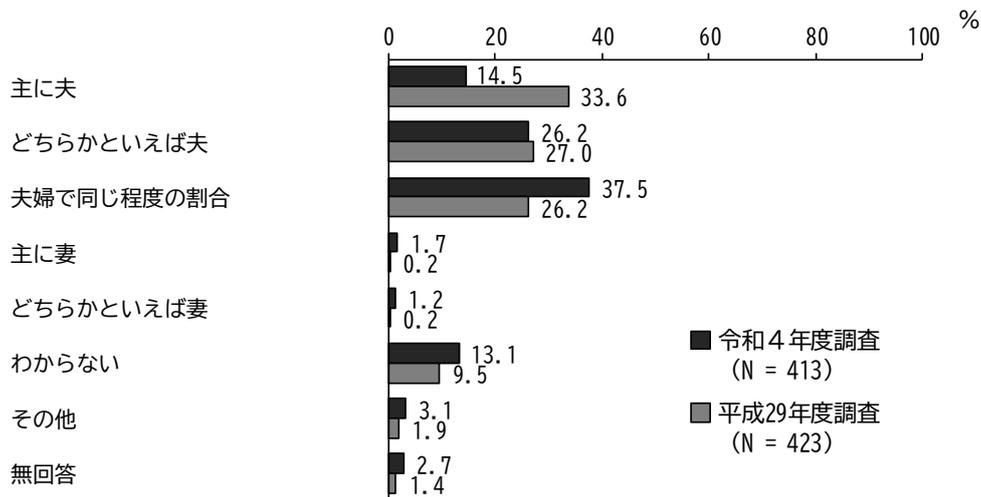
その他 51 件

問9 あなたが将来、家庭を持った場合、仕事は誰がすることが望ましいと思いますか。(あてはまるもの1つに○)

「夫婦で同じ程度の割合」の割合が 37.5%と最も高く、次いで「どちらかといえば夫」の割合が 26.2%、「主に夫」の割合が 14.5%となっています。

平成 29 年度調査と比較すると、「夫婦で同じ程度の割合」の割合が増加しています。一方、「主に夫」の割合が減少しています。

【経年】



【性別】

性別で見ると、女性では「夫婦で同じ程度の割合」の割合が高く、男性では「主に夫」の割合が高くなっています。

単位：%

区分	N (件)	主に夫	どちらかといえば夫	夫婦で同じ程度の割合	主に妻	どちらかといえば妻	わからない	その他	無回答
全体	413	14.5	26.2	37.5	1.7	1.2	13.1	3.1	2.7
女性	183	6.6	29.5	48.6	—	1.1	12.6	1.1	0.5
男性	207	20.8	25.1	30.4	2.9	1.0	12.6	4.3	2.9

高校生 問9 その他回答
働きたい方が働く
自分も働くが妻は自分で決めたらいいと思う

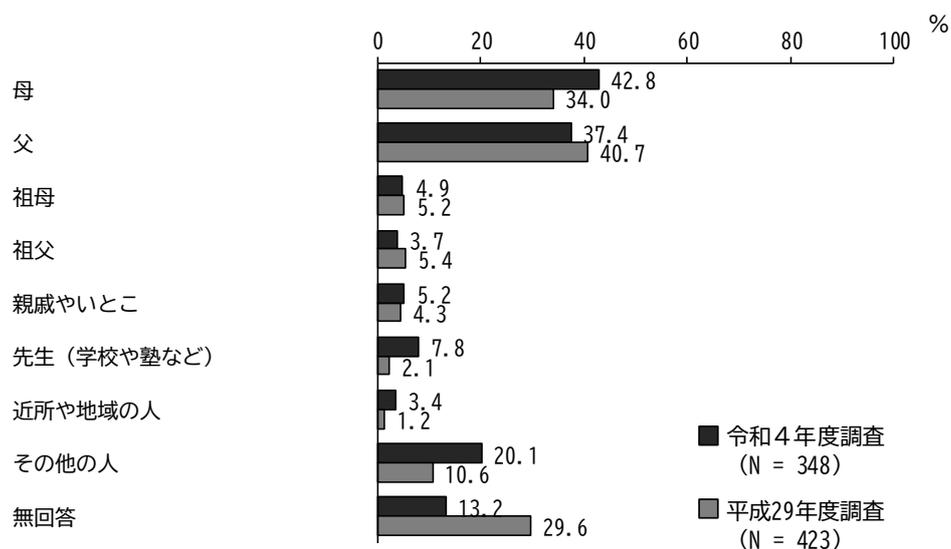
その他 10件

問10 問9で回答された考え方のきっかけとなったのは、誰の言葉や行為ですか。(あてはまるものすべてに○)

「母」の割合が42.8%と最も高く、次いで「父」の割合が37.4%、「その他の人」の割合が20.1%となっています。

平成29年度調査と比較すると、「母」、「先生（学校や塾など）」、「その他の人」の割合が増加しています。

【経年】



【性別】

性別で見ると、男性に比べ女性で「母」の割合が高くなっています。

単位：%

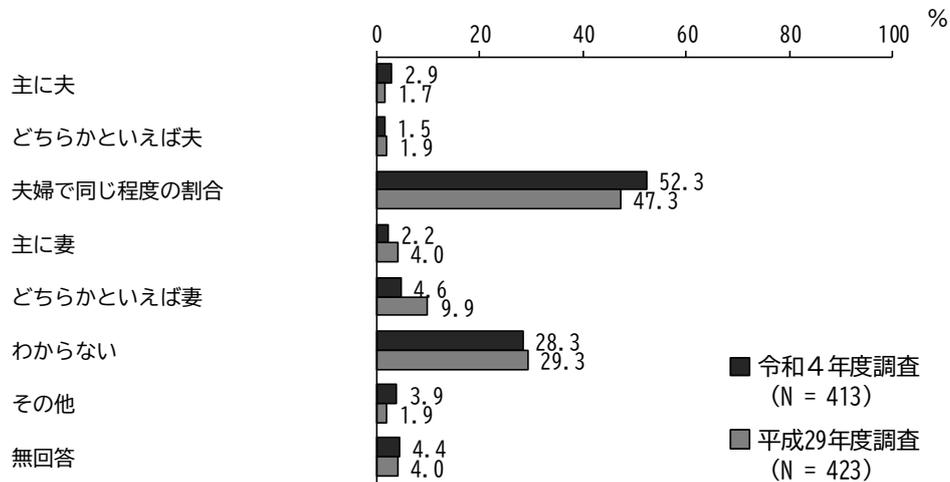
区分	N (件)	母	父	祖母	祖父	親戚やいっとこ	先生 (学校や塾など)	近所や地域の人	その他の人	無回答
全体	348	42.8	37.4	4.9	3.7	5.2	7.8	3.4	20.1	13.2
女性	159	49.1	35.8	6.3	3.8	4.4	7.5	2.5	16.4	15.1
男性	175	37.1	40.0	4.0	4.0	5.7	8.0	4.0	22.9	11.4

問11 あなたが将来、家庭を持った場合、介護は誰がすることが望ましいと思いますか。(あてはまるもの1つに○)

「夫婦で同じ程度の割合」の割合が52.3%と最も高く、次いで「わからない」の割合が28.3%となっています。

平成29年度調査と比較すると、「どちらかといえば妻」の割合が減少しています。

【経年】



【性別】

性別で見ると、男性に比べ女性で「夫婦で同じ程度の割合」の割合が高くなっています。

単位：%

区分	N (件)	主に夫	どちらかといえば夫	夫婦で同じ程度の割合	主に妻	どちらかといえば妻	わからない	その他	無回答
全体	413	2.9	1.5	52.3	2.2	4.6	28.3	3.9	4.4
女性	183	0.5	1.1	60.1	0.5	4.4	28.4	3.3	1.6
男性	207	4.3	1.9	49.3	2.9	5.3	26.6	3.9	5.8

高校生 問11 その他回答
積極的にしたいと思っている人がするのが最も望ましいと思う
介護施設
家族
兄弟
話し合いで決める
専門の人

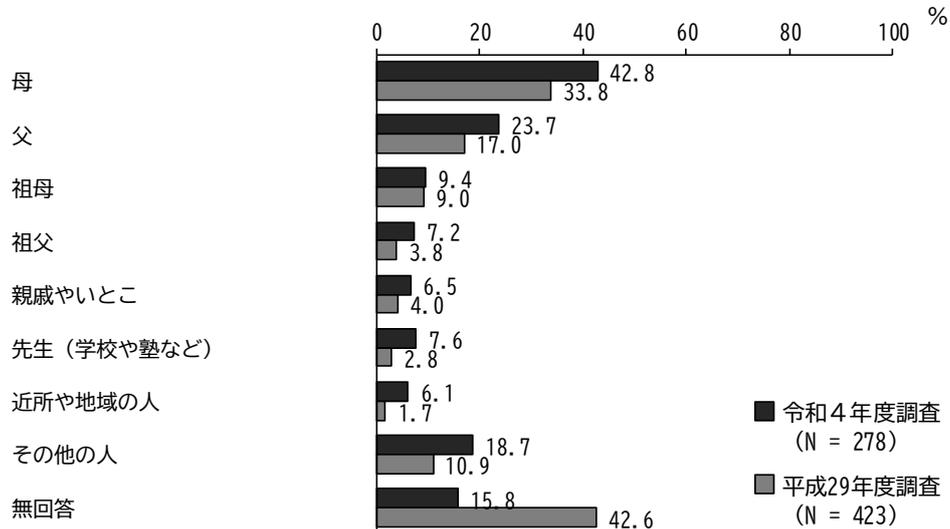
その他9件

問12 問11で回答された考え方のきっかけとなったのは、誰の言葉や行為ですか。(あてはまるものすべてに○)

「母」の割合が42.8%と最も高く、次いで「父」の割合が23.7%、「その他の人」の割合が18.7%となっています。

平成29年度調査と比較すると、「母」、「父」、「その他の人」の割合が増加しています。

【経年】



【性別】

性別で見ると、女性に比べ男性で「父」の割合が高くなっています。

単位：%

区分	N (件)	母	父	祖母	祖父	親戚やいとこ	先生(学校や塾など)	近所や地域の人	その他の人	無回答
全体	278	42.8	23.7	9.4	7.2	6.5	7.6	6.1	18.7	15.8
女性	128	39.8	18.8	9.4	8.6	6.3	8.6	7.0	18.0	21.1
男性	140	47.1	30.0	9.3	6.4	5.7	7.1	5.7	17.1	12.1

高校生 問12 その他回答
テレビ
自分でそう思ったから
ニュースなど
メディア
社会全般

その他41件

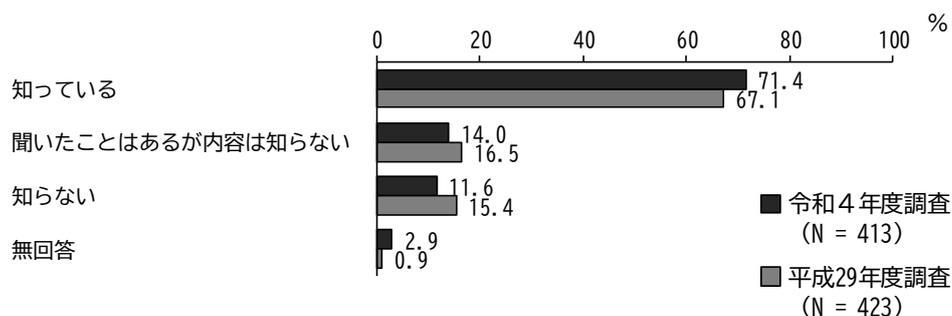
3 デートDVについて

問13 あなたは、「デートDV」について知っていますか。(あてはまるもの1つに○)

「知っている」の割合が71.4%と最も高く、次いで「聞いたことはあるが内容は知らない」の割合が14.0%、「知らない」の割合が11.6%となっています。

平成29年度調査と比較すると、大きな変化はみられません。

【経年】



【性別】

性別で見ると、男性に比べ女性で「知っている」の割合が高くなっています。

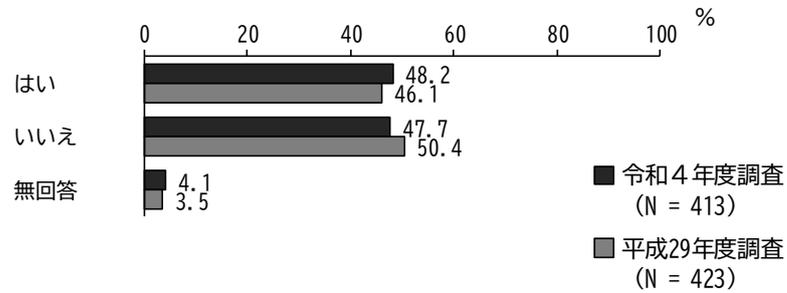
単位：%

区分	N (件)	知っている	聞いたことはあるが内容は知らない	知らない	無回答
全体	413	71.4	14.0	11.6	2.9
女性	183	79.8	12.0	6.6	1.6
男性	207	64.7	16.9	15.9	2.4

問 14 あなたは現在、恋人(交際相手)がいますか、または恋人(交際相手)がいましたか。(あてはまるもの1つに○)

「はい」の割合が48.2%、「いいえ」の割合が47.7%となっています。
平成29年度調査と比較すると、大きな変化はみられません。

【経年】



【性別】

性別で見ると、女性で「はい」の割合が、男性で「いいえ」の割合が高くなっています。

単位：%

区分	N (件)	はい	いいえ	無回答
全体	413	48.2	47.7	4.1
女性	183	53.6	42.1	4.4
男性	207	44.4	52.7	2.9

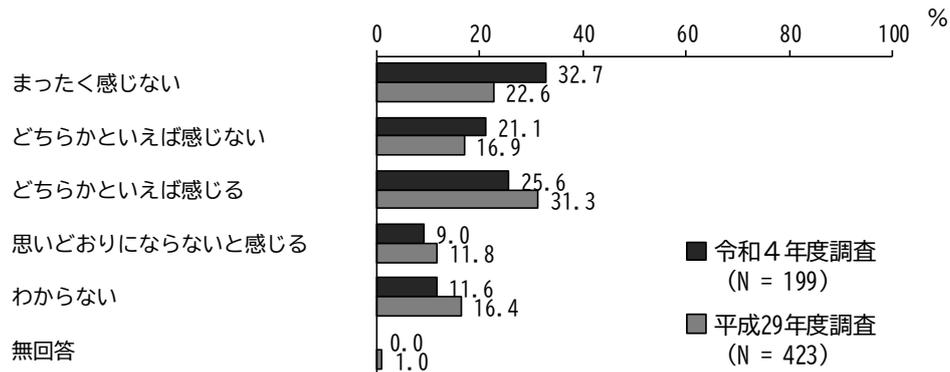
問14-① 【問14で1.「はい」と答えた人に聞きます。】

あなたは、恋人との関係において、思いどおりにならないと感じることがありますか。またはありましたか。

「まったく感じない」の割合が32.7%と最も高く、次いで「どちらかといえば感じる」の割合が25.6%、「どちらかといえば感じない」の割合が21.1%となっています。

平成29年度調査と比較すると、「まったく感じない」の割合が増加しています。一方、「どちらかといえば感じる」の割合が減少しています。

【経年】



【性別】

性別で見ると、女性で「どちらかといえば感じる」の割合が、男性で「まったく感じない」の割合が高くなっています。

単位：%

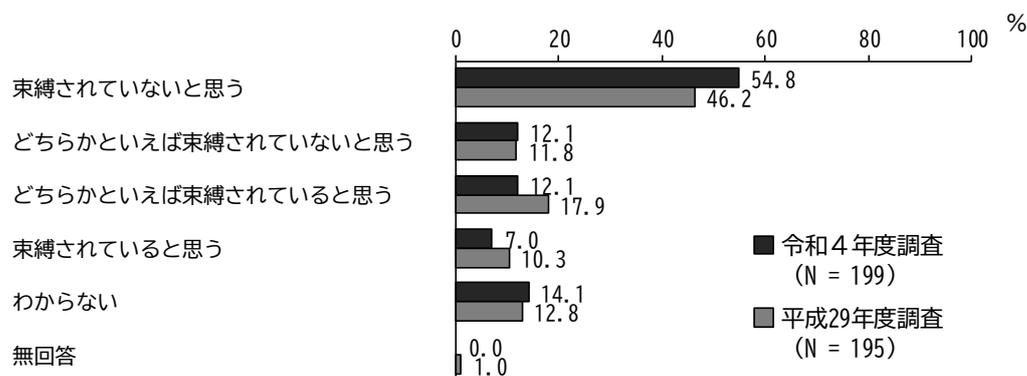
区分	N (件)	まったく感じない	どちらかといえば感じない	どちらかといえば感じる	思いどおりにならないと感じる	わからない	無回答
全体	199	32.7	21.1	25.6	9.0	11.6	—
女性	98	24.5	18.4	34.7	10.2	12.2	—
男性	92	40.2	23.9	18.5	6.5	10.9	—

問14-② あなたは、恋人に束縛されていると思いますか。または思いましたか。

「束縛されていないと思う」の割合が54.8%と最も高く、次いで「わからない」の割合が14.1%、「どちらかといえば束縛されていないと思う」、「どちらかといえば束縛されていると思う」の割合が12.1%となっています。

平成29年度調査と比較すると、「束縛されていないと思う」の割合が増加しています。一方、「どちらかといえば束縛されていると思う」の割合が減少しています。

【経年】



【性別】

性別で見ると、女性に比べ男性で「束縛されていないと思う」の割合が高くなっています。

単位：%

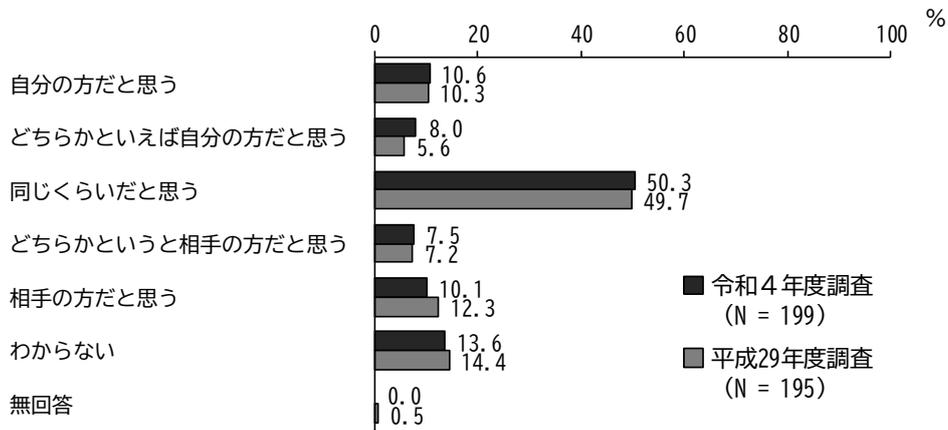
区分	N (件)	束縛されていないと思う	どちらかといえば束縛されていないと思う	どちらかといえば束縛されていると思う	束縛されていると思う	わからない	無回答
全体	199	54.8	12.1	12.1	7.0	14.1	—
女性	98	44.9	16.3	15.3	8.2	15.3	—
男性	92	65.2	8.7	7.6	5.4	13.0	—

問14-③ あなたと恋人との関係は、あなたの判断ではどちらが強い(優位である)と思いますか。または、思いましたか。

「同じくらいだと思う」の割合が50.3%と最も高く、次いで「わからない」の割合が13.6%、「自分の方だと思う」の割合が10.6%となっています。

平成29年度調査と比較すると、大きな変化はみられません。

【経年】



【性別】

性別で見ると、女性に比べ男性で「同じくらいだと思う」、「相手の方だと思う」の割合が高くなっています。

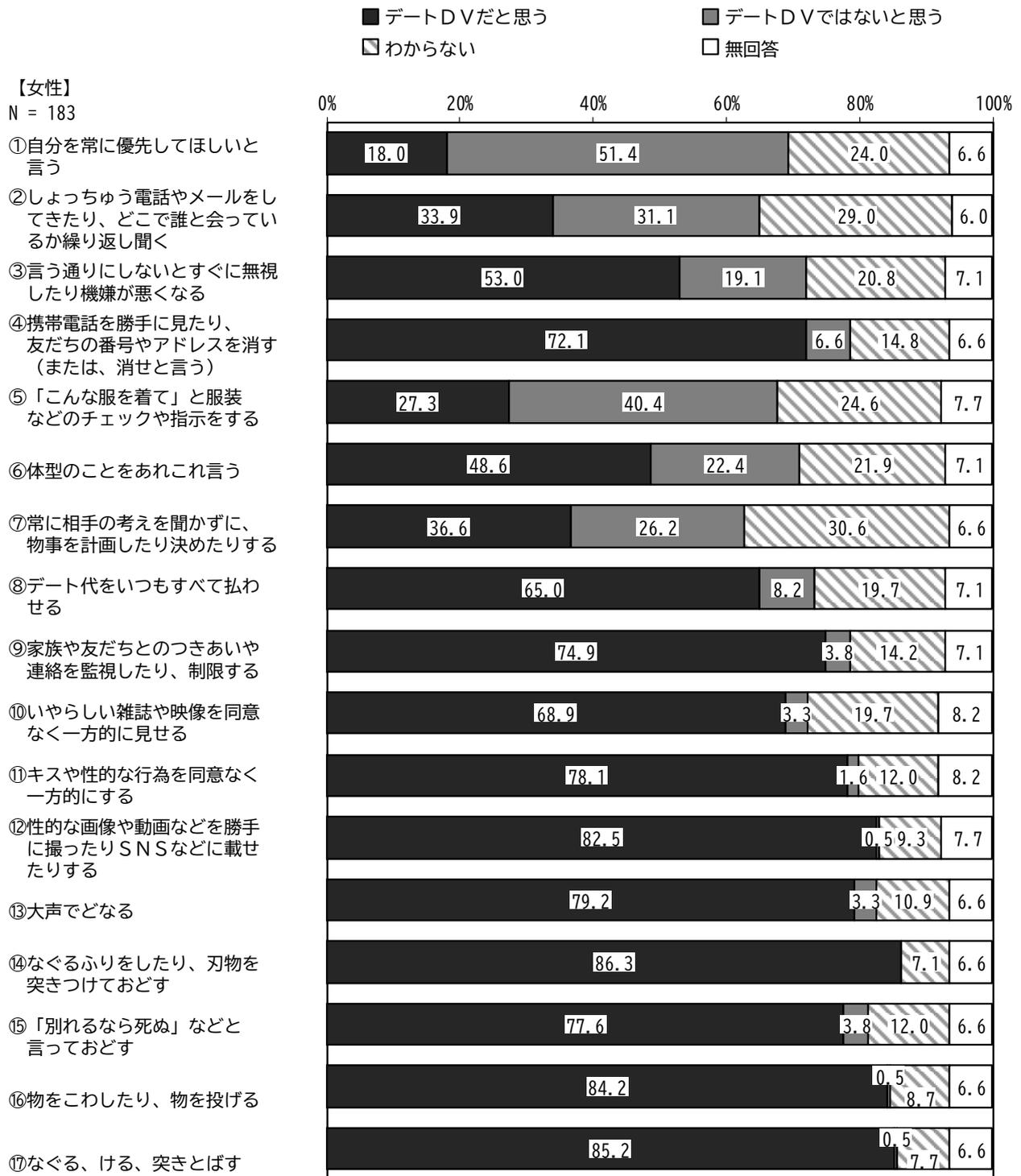
単位：%

区分	N (件)	自分の方だと思う	どちらかといえば自分の方だと思う	同じくらいだと思う	どちらかという相手の方だと思う	相手の方だと思う	わからない	無回答
全体	199	10.6	8.0	50.3	7.5	10.1	13.6	—
女性	98	14.3	13.3	43.9	11.2	5.1	12.2	—
男性	92	4.3	3.3	57.6	3.3	16.3	15.2	—

問15 恋人との間で次のようなことが行われた場合、あなたはどのように思いますか。また、次のようなことを実際に相手にしたり、された経験がありますか。

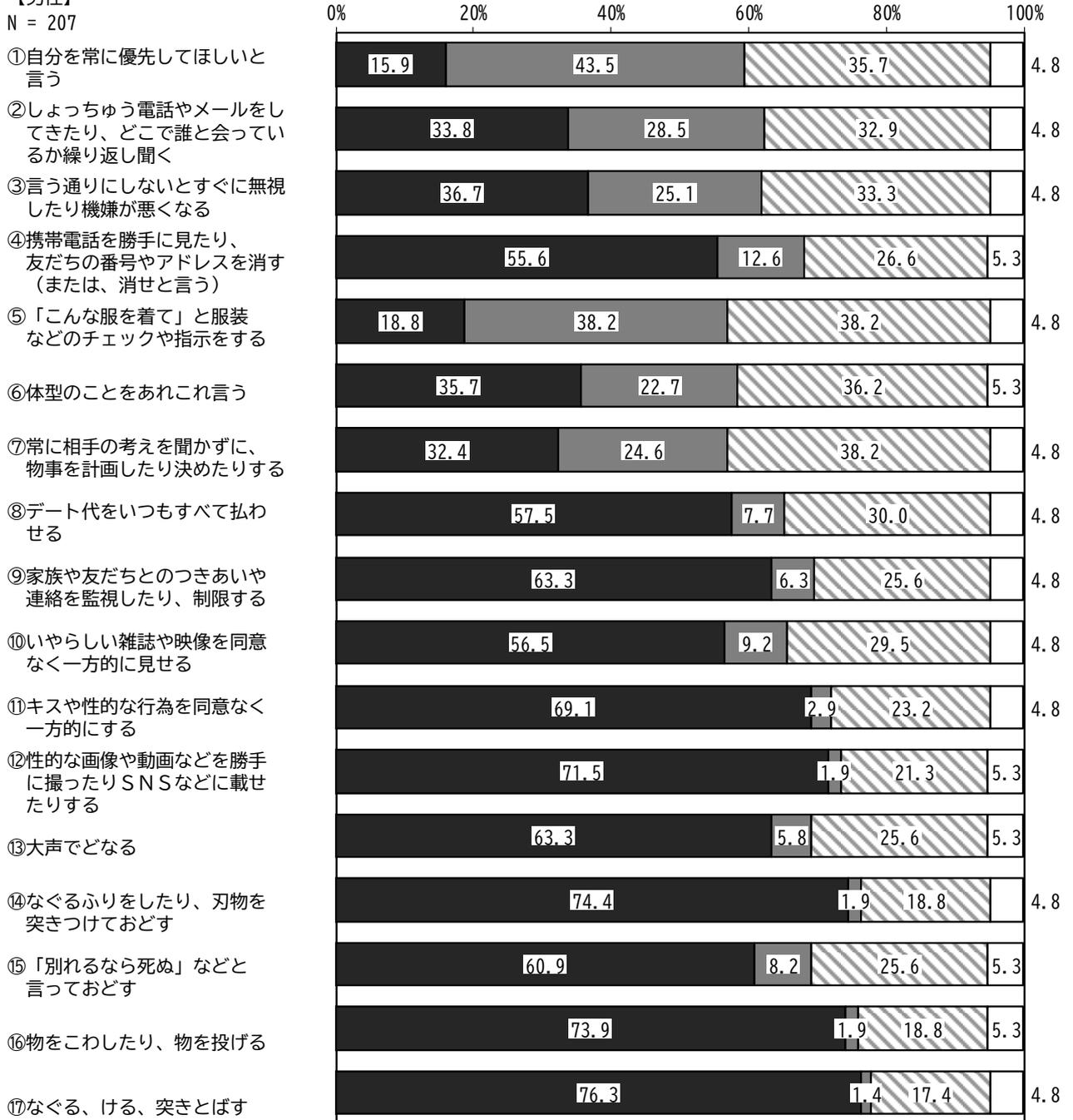
<どう思いますか>

性別に関わらず、『⑭なぐるふりをしたり、刃物を突きつけておどす』、『⑯物をこわしたり、物を投げる』、『⑰なぐる、ける、突きとばす』で「デートDVだと思う」の割合が高くなっています。また、『①自分を常に優先してほしいと言う』で「デートDVではないと思う」の割合が高くなっています。



■ デートDVだと思う ■ デートDVではないと思う
 ▨ わからない □ 無回答

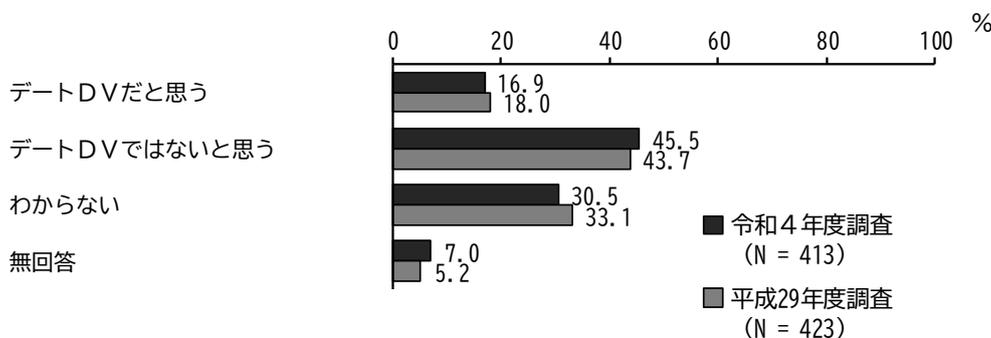
【男性】
N = 207



①自分を常に優先してほしいと言う

「デートDVではないと思う」の割合が45.5%と最も高く、次いで「わからない」の割合が30.5%、「デートDVだと思う」の割合が16.9%となっています。

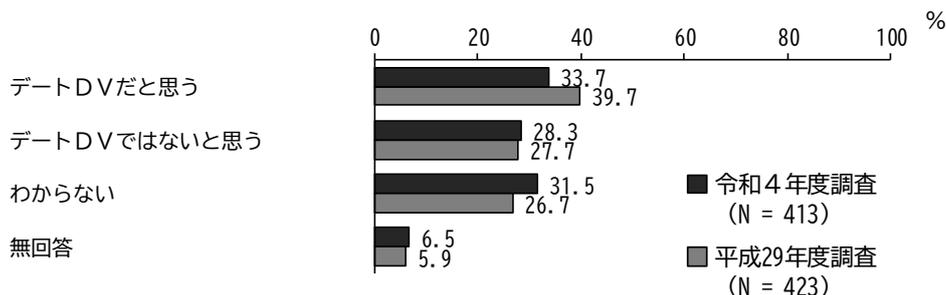
平成29年度調査と比較すると、大きな変化はみられません。



②しょっちゅう電話やメールをしてきたり、どこで誰と会っているか繰り返し聞く

「デートDVだと思う」の割合が33.7%と最も高く、次いで「わからない」の割合が31.5%、「デートDVではないと思う」の割合が28.3%となっています。

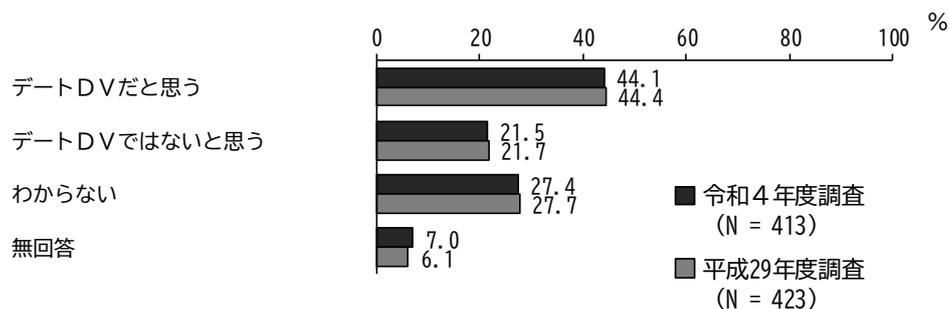
平成29年度調査と比較すると、「デートDVだと思う」の割合が減少しています。



③言う通りにしないとすぐに無視したり機嫌が悪くなる

「デートDVだと思う」の割合が44.1%と最も高く、次いで「わからない」の割合が27.4%、「デートDVではないと思う」の割合が21.5%となっています。

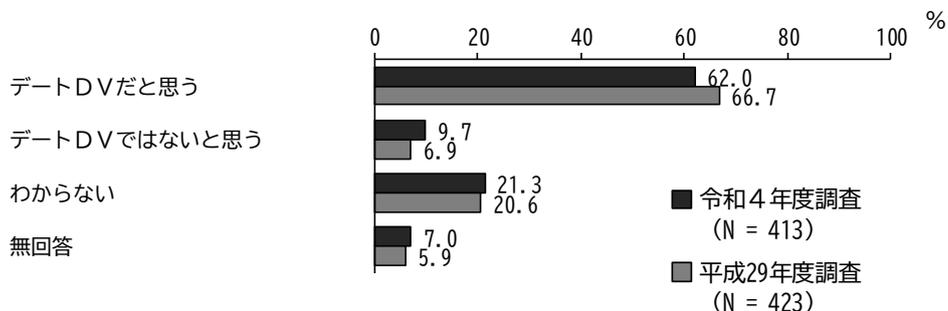
平成29年度調査と比較すると、大きな変化はみられません。



④携帯電話を勝手に見たり、友だちの番号やアドレスを消す（または、消せと言う）

「デートDVだと思う」の割合が62.0%と最も高く、次いで「わからない」の割合が21.3%となっています。

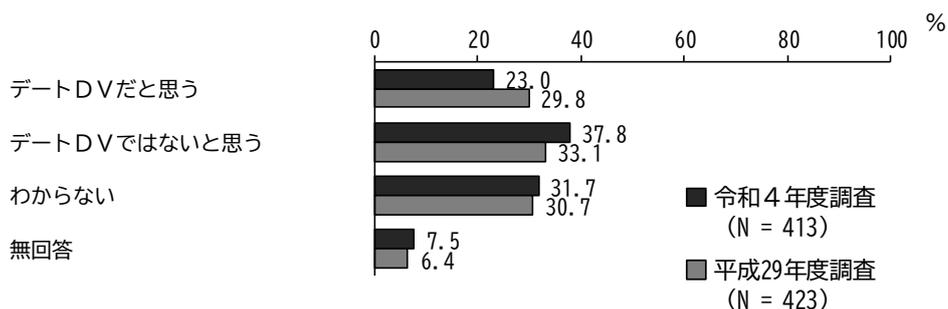
平成29年度調査と比較すると、大きな変化はみられません。



⑤「こんな服を着て」と服装などのチェックや指示をする

「デートDVではないと思う」の割合が37.8%と最も高く、次いで「わからない」の割合が31.7%、「デートDVだと思う」の割合が23.0%となっています。

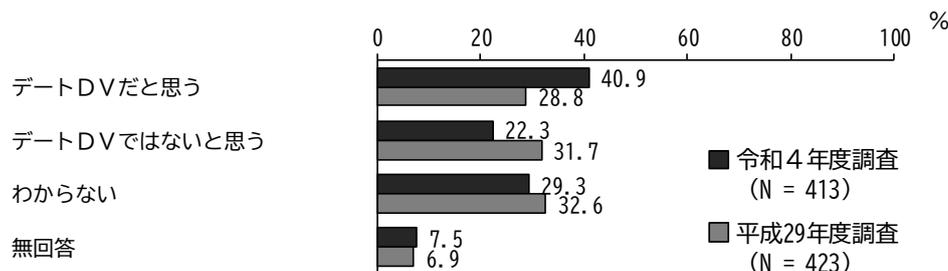
平成29年度調査と比較すると、「デートDVだと思う」の割合が減少しています。



⑥体型のことをあれこれ言う

「デートDVだと思う」の割合が40.9%と最も高く、次いで「わからない」の割合が29.3%、「デートDVではないと思う」の割合が22.3%となっています。

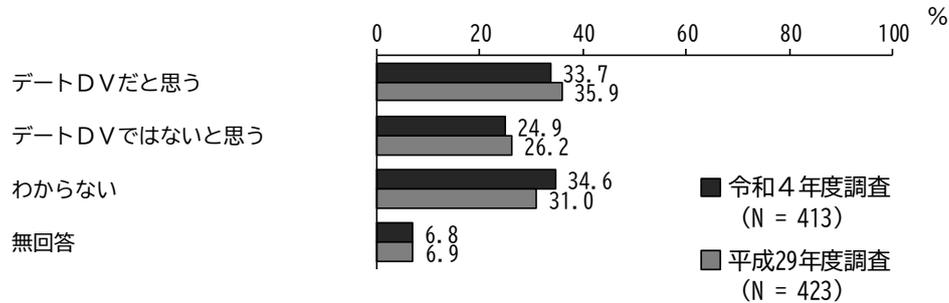
平成29年度調査と比較すると、「デートDVだと思う」の割合が増加しています。一方、「デートDVではないと思う」の割合が減少しています。



⑦常に相手の考えを聞かずに、物事を計画したり決めたりする

「わからない」の割合が34.6%と最も高く、次いで「デートDVだと思う」の割合が33.7%、「デートDVではないと思う」の割合が24.9%となっています。

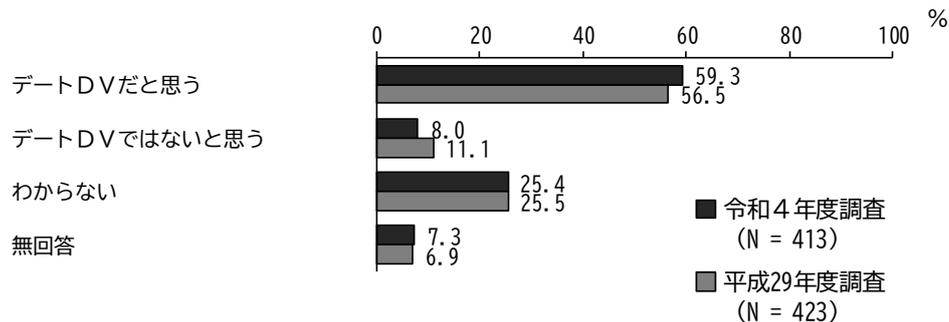
平成29年度調査と比較すると、大きな変化はみられません。



⑧デート代をいつもすべて払わせる

「デートDVだと思う」の割合が59.3%と最も高く、次いで「わからない」の割合が25.4%となっています。

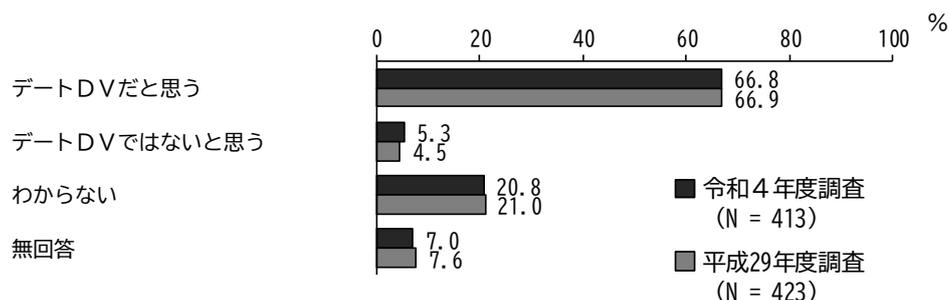
平成29年度調査と比較すると、大きな変化はみられません。



⑨家族や友だちとのつきあいや連絡を監視したり、制限する

「デートDVだと思う」の割合が66.8%と最も高く、次いで「わからない」の割合が20.8%となっています。

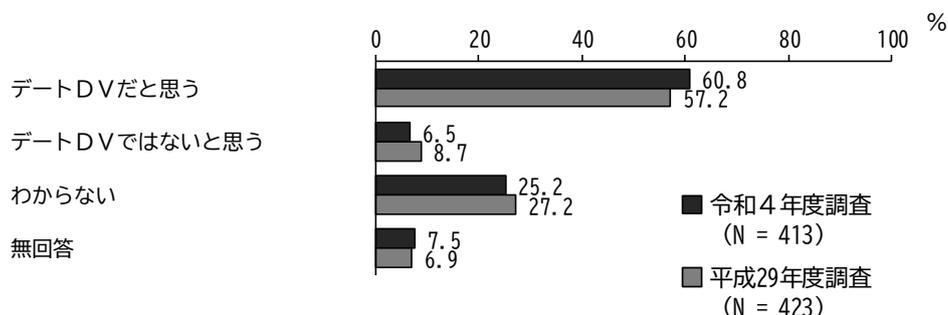
平成29年度調査と比較すると、大きな変化はみられません。



⑩いやらしい雑誌や映像を同意なく一方的に見せる

「デートDVだと思う」の割合が60.8%と最も高く、次いで「わからない」の割合が25.2%となっています。

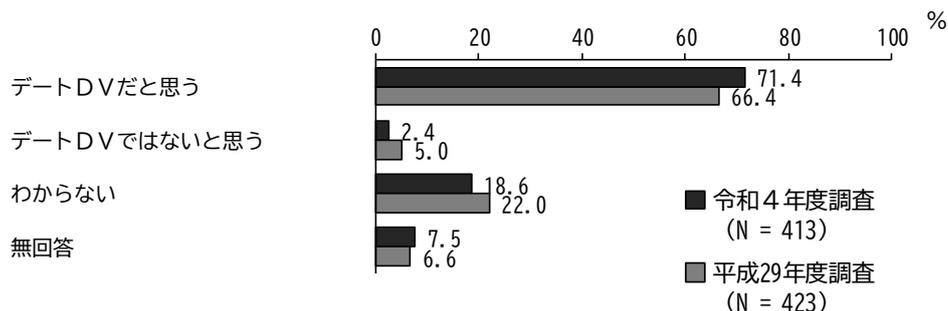
平成29年度調査と比較すると、大きな変化はみられません。



⑪キスや性的な行為を同意なく一方的にする

「デートDVだと思う」の割合が71.4%と最も高く、次いで「わからない」の割合が18.6%となっています。

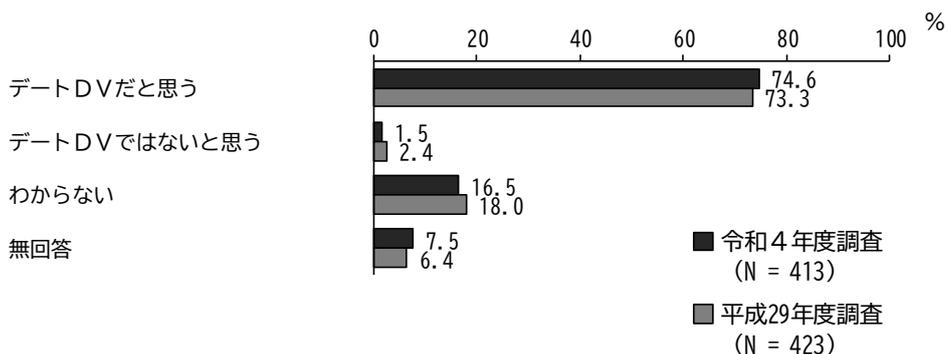
平成29年度調査と比較すると、「デートDVだと思う」の割合が増加しています。



⑫性的な画像や動画などを勝手に撮ったりSNSなどに載せたりする

「デートDVだと思う」の割合が74.6%と最も高く、次いで「わからない」の割合が16.5%となっています。

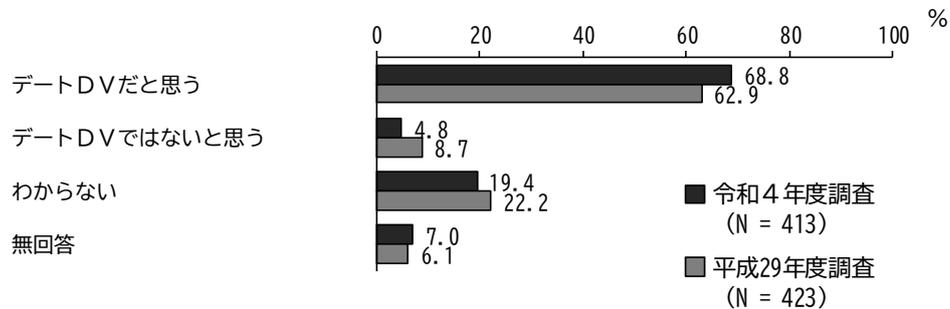
平成29年度調査と比較すると、大きな変化はみられません。



⑬ 大声でどなる

「デートDVだと思う」の割合が 68.8%と最も高く、次いで「わからない」の割合が 19.4%となっています。

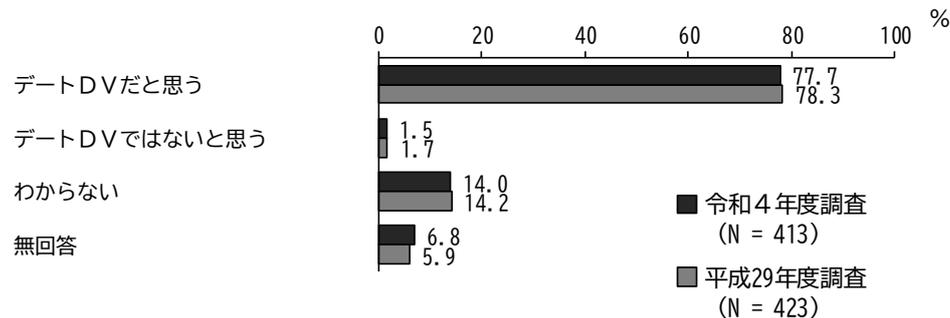
平成 29 年度調査と比較すると、「デートDVだと思う」の割合が増加しています。



⑭ なぐるふりをしたり、刃物を突きつけておどす

「デートDVだと思う」の割合が 77.7%と最も高く、次いで「わからない」の割合が 14.0%となっています。

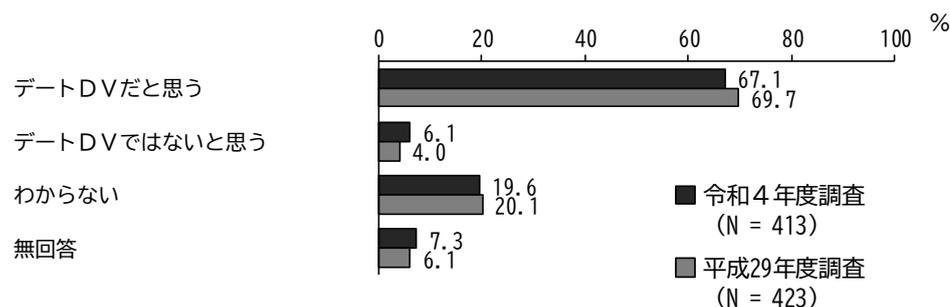
平成 29 年度調査と比較すると、大きな変化はみられません。



⑮ 「別れるなら死ぬ」などと言っておどす

「デートDVだと思う」の割合が 67.1%と最も高く、次いで「わからない」の割合が 19.6%となっています。

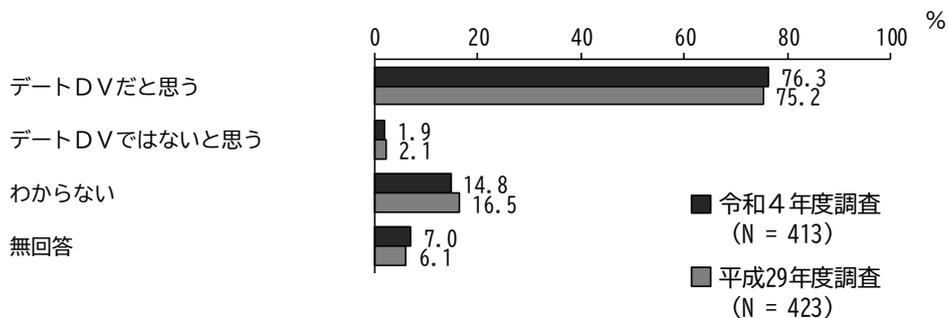
平成 29 年度調査と比較すると、大きな変化はみられません。



⑩物をこわしたり、物を投げる

「デートDVだと思う」の割合が76.3%と最も高く、次いで「わからない」の割合が14.8%となっています。

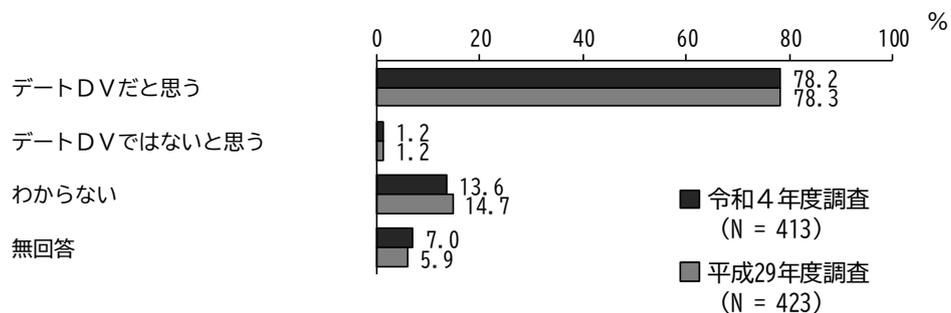
平成29年度調査と比較すると、大きな変化はみられません。



⑪なぐる、ける、突きとばす

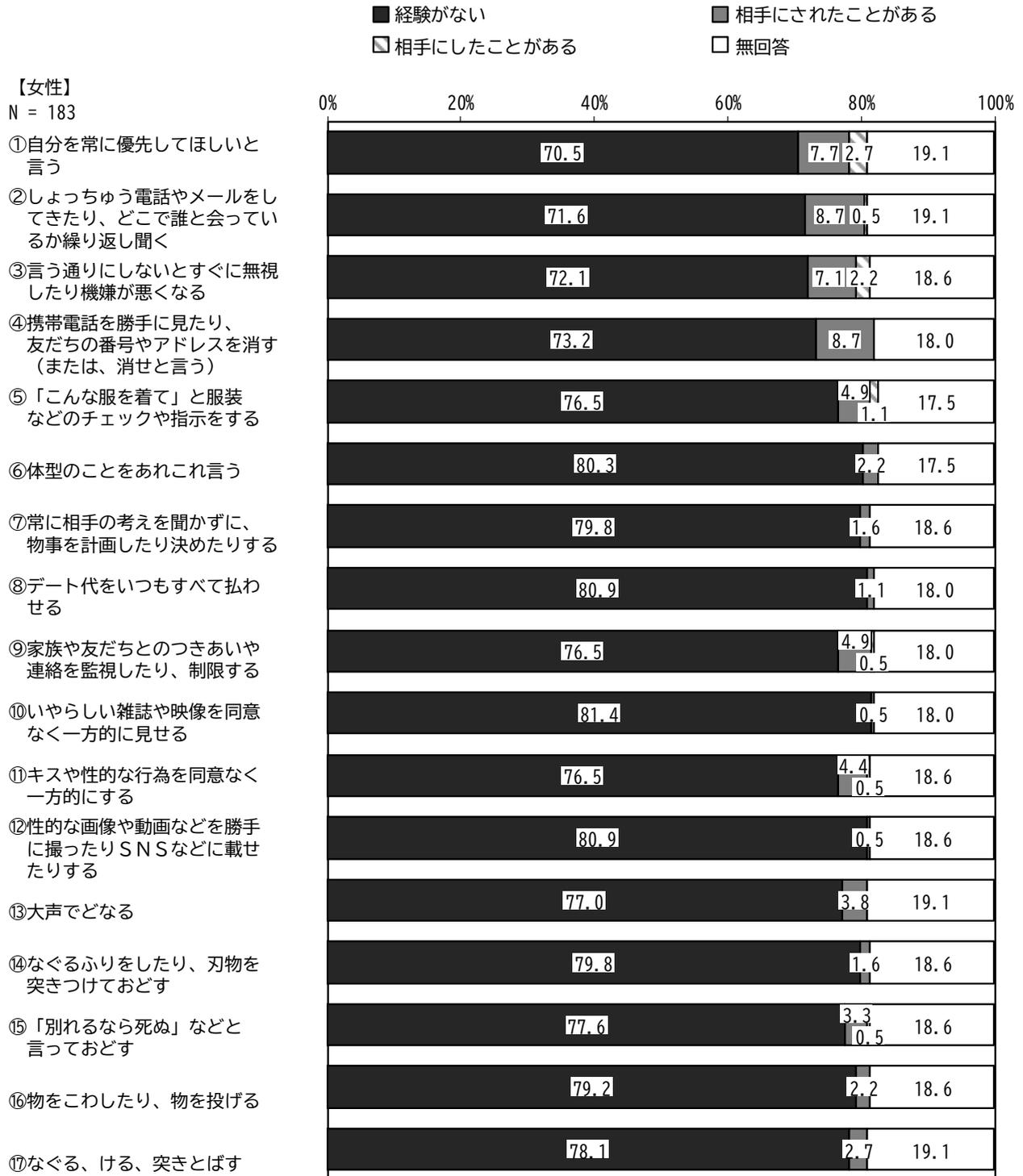
「デートDVだと思う」の割合が78.2%と最も高く、次いで「わからない」の割合が13.6%となっています。

平成29年度調査と比較すると、大きな変化はみられません。

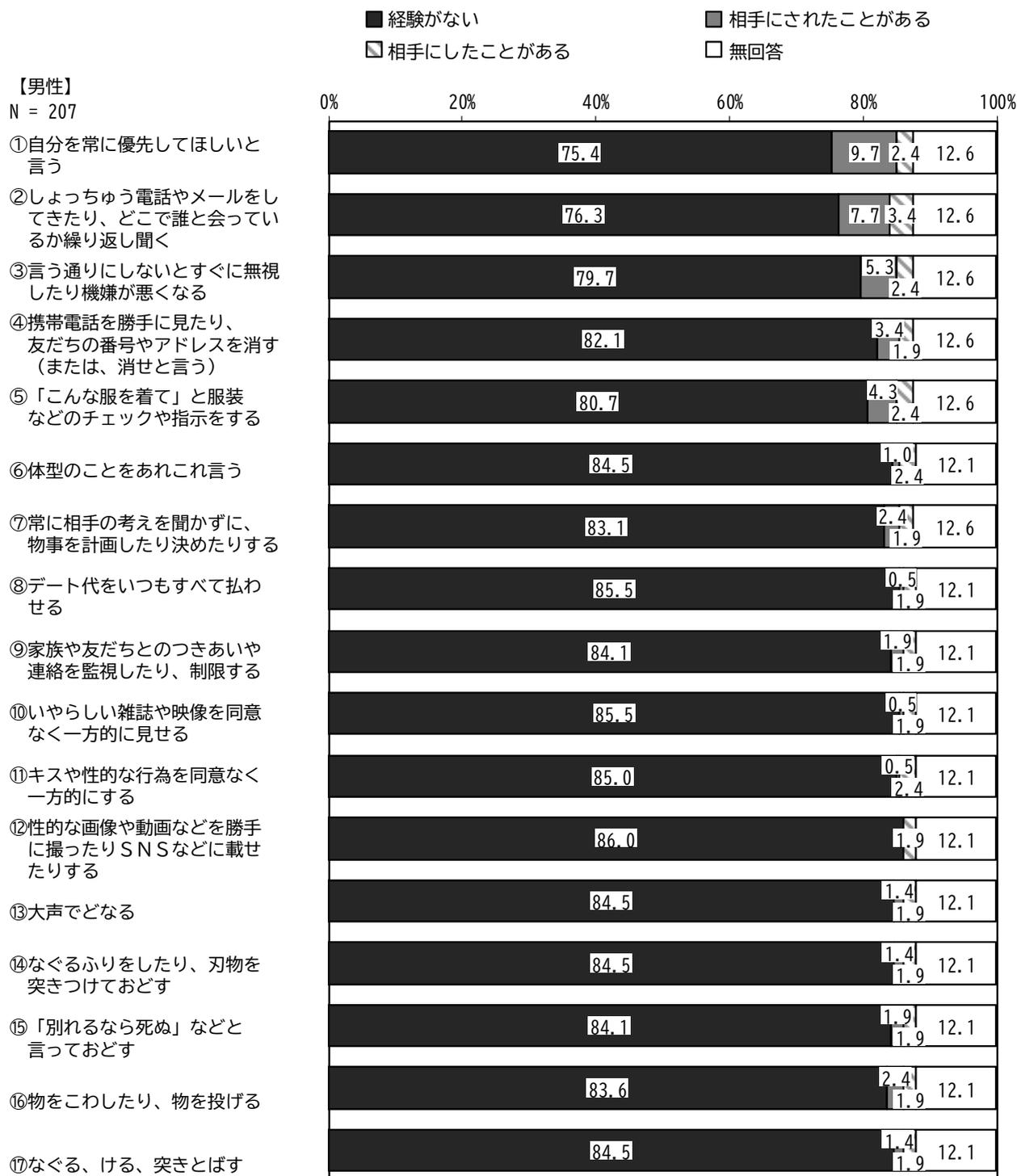


「行為の経験」

女性では『①自分を常に優先してほしいと言う』、『②しょっちゅう電話やメールをしてきたり、どこで誰と会っているか繰り返し聞く』、『③言う通りにしないとすぐに無視したり機嫌が悪くなる』、『④携帯電話を勝手に見たり、友だちの番号やアドレスを消す（または、消せと言う）』で「相手にされたことがある」の割合が高くなっています。



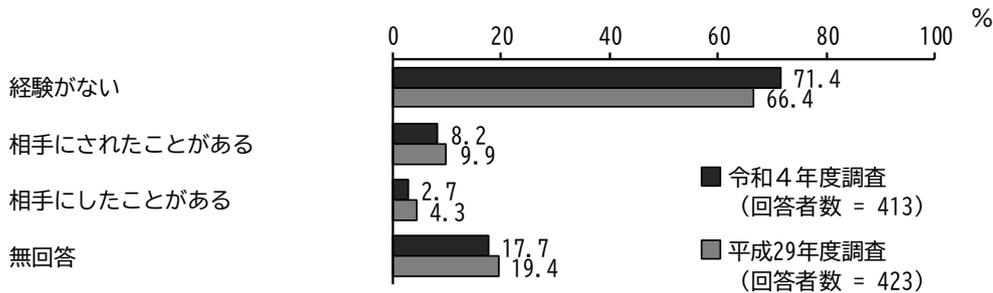
男性では『①自分を常に優先してほしいと言う』、『②しょっちゅう電話やメールをしてきたり、どこで誰と会っているか繰り返し聞く』で「相手にされたことがある」の割合が高くなっています。



①自分を常に優先してほしいと言う

「経験がない」の割合が71.4%と最も高くなっています。

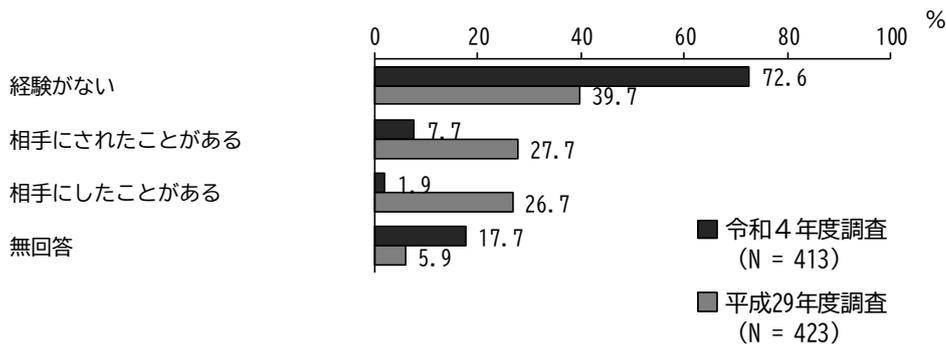
平成29年度調査と比較すると、「経験がない」の割合が増加しています。



②しょっちゅう電話やメールをしてきたり、どこで誰と会っているか繰り返し聞く

「経験がない」の割合が72.6%と最も高くなっています。

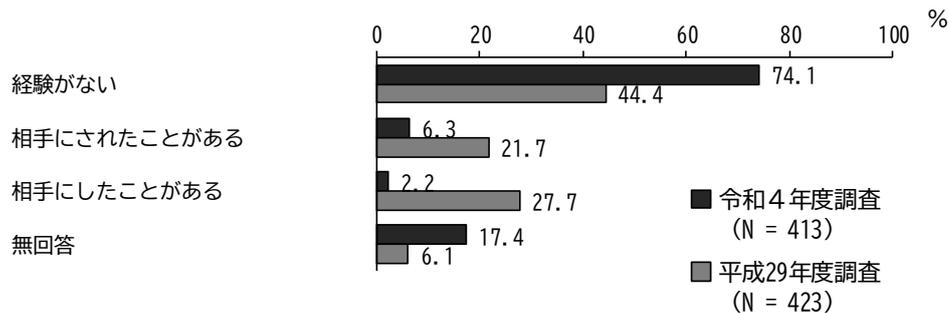
平成29年度調査と比較すると、「経験がない」の割合が増加しています。一方、「相手にされたことがある」、「相手にしたことがある」の割合が減少しています。



③言う通りにしないとすぐに無視したり機嫌が悪くなる

「経験がない」の割合が74.1%と最も高くなっています。

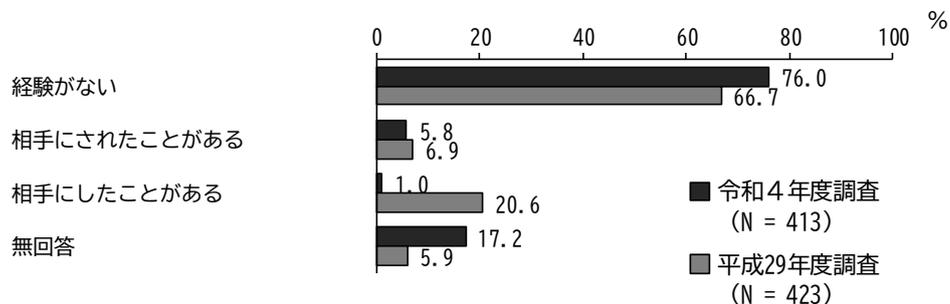
平成29年度調査と比較すると、「経験がない」の割合が増加しています。一方、「相手にされたことがある」、「相手にしたことがある」の割合が減少しています。



④携帯電話を勝手に見たり、友だちの番号やアドレスを消す（または、消せと言う）

「経験がない」の割合が76.0%と最も高くなっています。

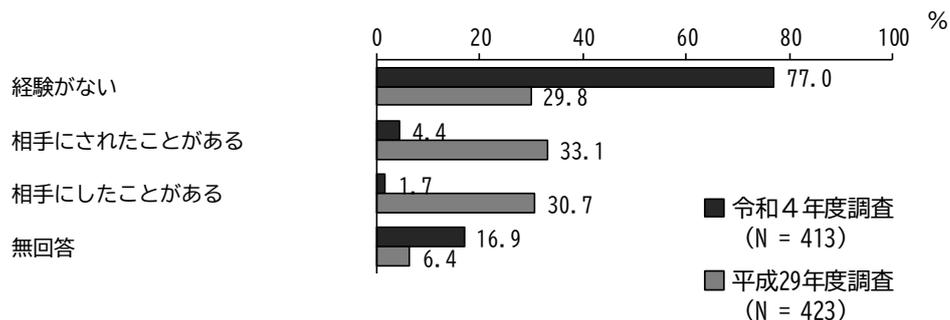
平成29年度調査と比較すると、「経験がない」の割合が増加しています。一方、「相手にされたことがある」「相手にしたことがある」の割合が減少しています。



⑤「こんな服を着て」と服装などのチェックや指示をする

「経験がない」の割合が77.0%と最も高くなっています。

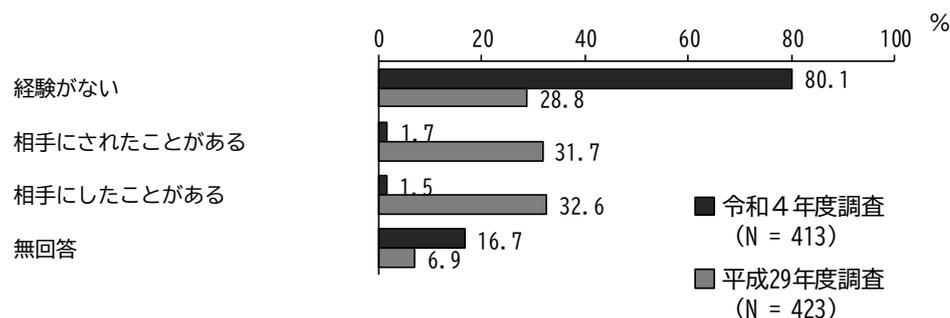
平成29年度調査と比較すると、「経験がない」の割合が増加しています。一方、「相手にされたことがある」「相手にしたことがある」の割合が減少しています。



⑥体型のことをあれこれ言う

「経験がない」の割合が80.1%と最も高くなっています。

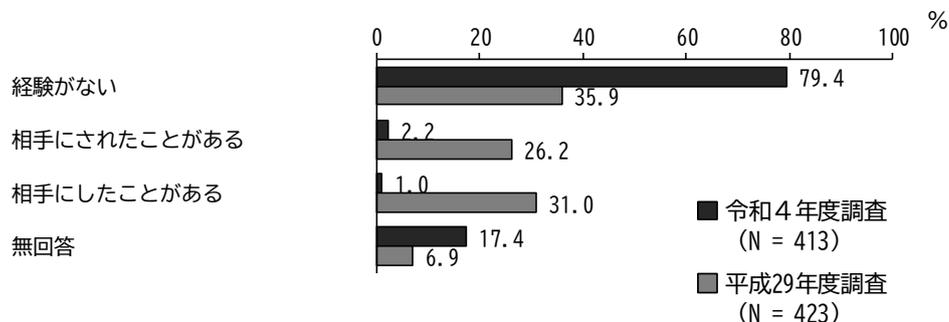
平成29年度調査と比較すると、「経験がない」の割合が増加しています。一方、「相手にされたことがある」「相手にしたことがある」の割合が減少しています。



⑦常に相手の考えを聞かずに、物事を計画したり決めたりする

「経験がない」の割合が79.4%と最も高くなっています。

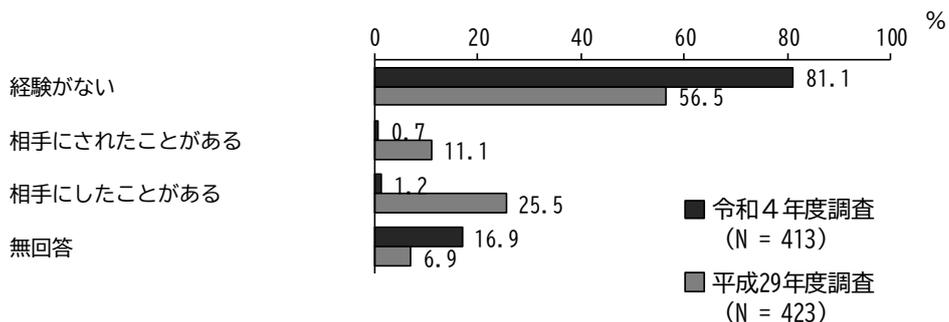
平成29年度調査と比較すると、「経験がない」の割合が増加しています。一方、「相手にされたことがある」、「相手にしたことがある」の割合が減少しています。



⑧デート代をいつもすべて払わせる

「経験がない」の割合が81.1%と最も高くなっています。

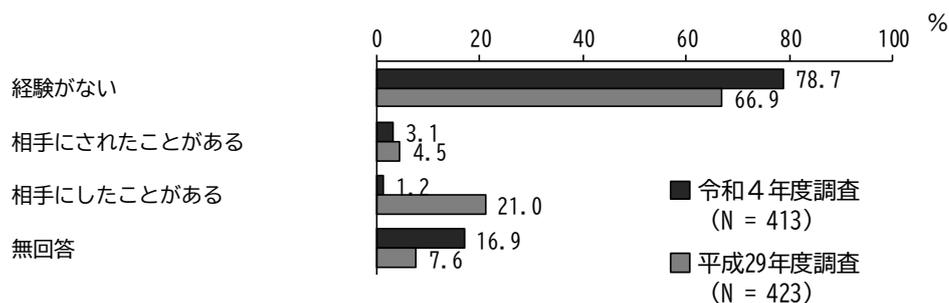
平成29年度調査と比較すると、「経験がない」の割合が増加しています。一方、「相手にされたことがある」、「相手にしたことがある」の割合が減少しています。



⑨家族や友だちとのつきあいや連絡を監視したり、制限する

「経験がない」の割合が78.7%と最も高くなっています。

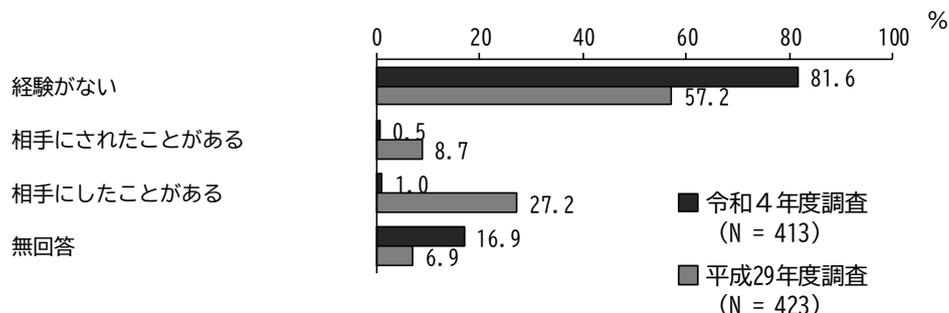
平成29年度調査と比較すると、「経験がない」の割合が増加しています。一方、「相手にしたことがある」の割合が減少しています。



⑩いやらしい雑誌や映像を同意なく一方的に見せる

「経験がない」の割合が 81.6%と最も高くなっています。

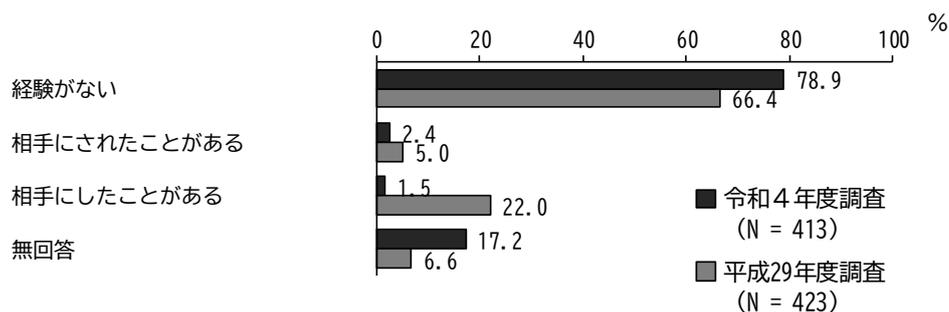
平成 29 年度調査と比較すると、「経験がない」の割合が増加しています。一方、「相手にされたことがある」、「相手にしたことがある」の割合が減少しています。



⑪キスや性的な行為を同意なく一方的にする

「経験がない」の割合が 78.9%と最も高くなっています。

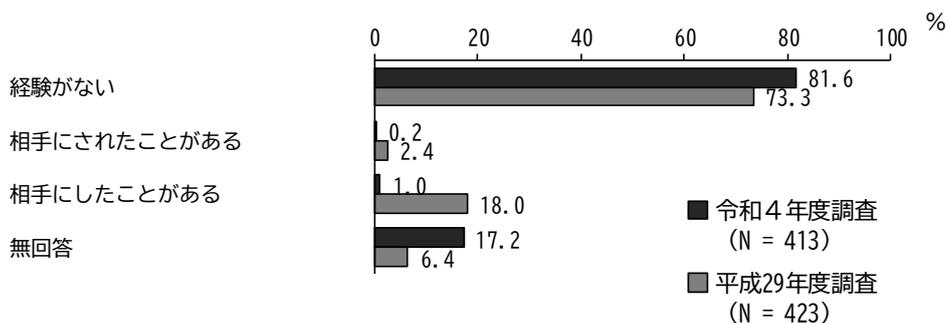
平成 29 年度調査と比較すると、「経験がない」の割合が増加しています。一方、「相手にしたことがある」の割合が減少しています。



⑫性的な画像や動画などを勝手に撮ったりSNSなどに載せたりする

「経験がない」の割合が 81.6%と最も高くなっています。

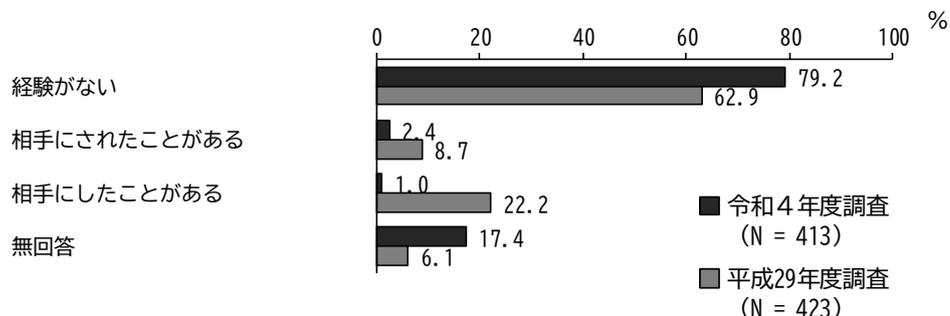
平成 29 年度調査と比較すると、「経験がない」の割合が増加しています。一方、「相手にしたことがある」の割合が減少しています。



⑬大声でどなる

「経験がない」の割合が79.2%と最も高くなっています。

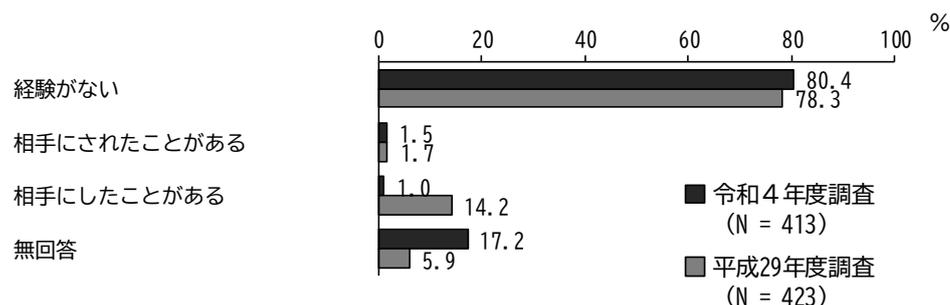
平成29年度調査と比較すると、「経験がない」の割合が増加しています。一方、「相手にされたことがある」、「相手にしたことがある」の割合が減少しています。



⑭なぐるふりをしたり、刃物を突きつけておどす

「経験がない」の割合が80.4%と最も高くなっています。

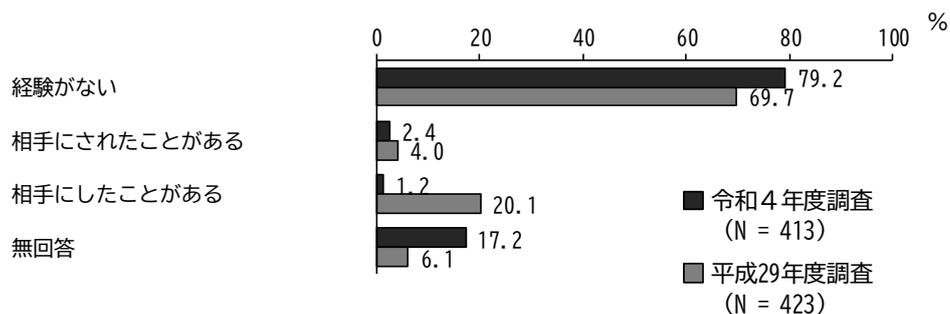
平成29年度調査と比較すると、「相手にしたことがある」の割合が減少しています。



⑮「別れるなら死ぬ」などと言っておどす

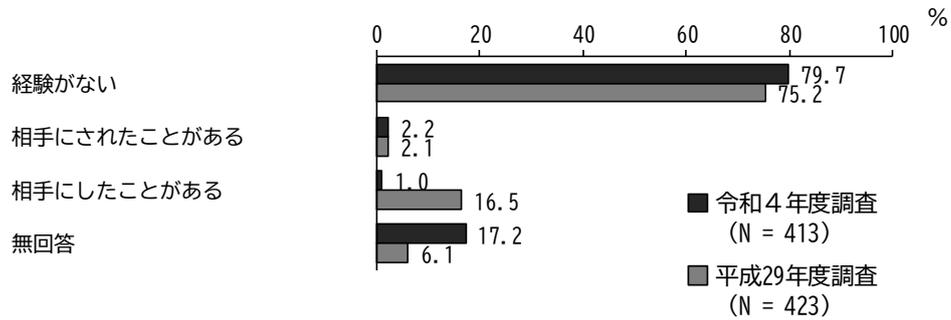
「経験がない」の割合が79.2%と最も高くなっています。

平成29年度調査と比較すると、「経験がない」の割合が増加しています。一方、「相手にしたことがある」の割合が減少しています。



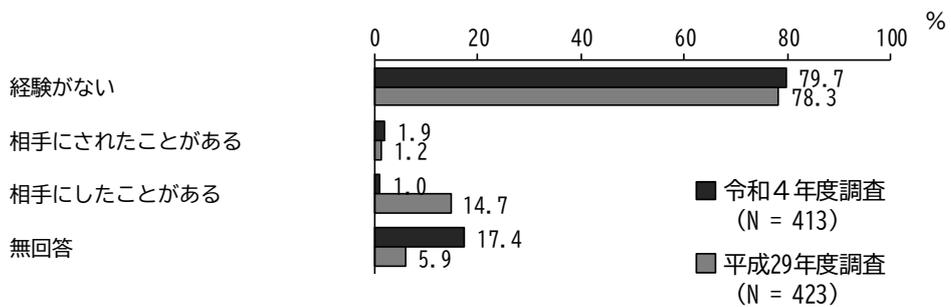
⑯物をこわしたり、物を投げる

「経験がない」の割合が79.7%と最も高くなっています。
 平成29年度調査と比較すると、「相手にしたことがある」の割合が減少しています。



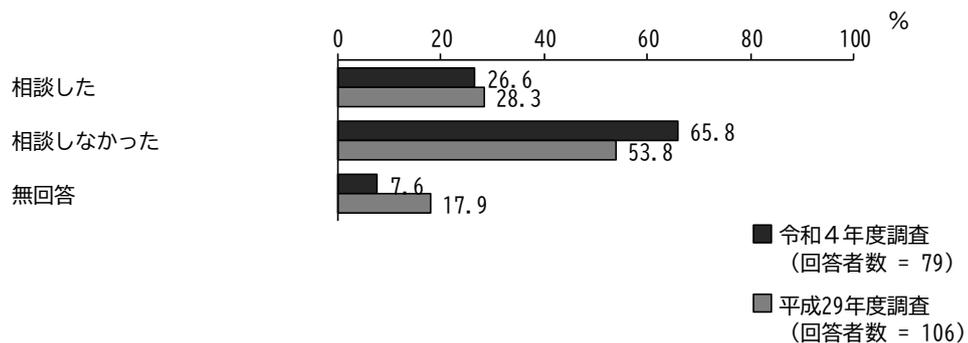
⑰なぐる、ける、突きとばす

「経験がない」の割合が79.7%と最も高くなっています。
 平成29年度調査と比較すると、「相手にしたことがある」の割合が減少しています。



問16 【問15の「行為の経験」で1つでも2.「相手にされたことがある」3.「相手にしたことがある」と答えた人に聞きます。
 それらの行為をしたり、されたりしたそのあと、相談しましたか。(あてはまるもの1つに○)

「相談した」の割合が26.6%、「相談しなかった」の割合が65.8%となっています。
 平成29年度調査と比較すると、「相談しなかった」の割合が増加しています。



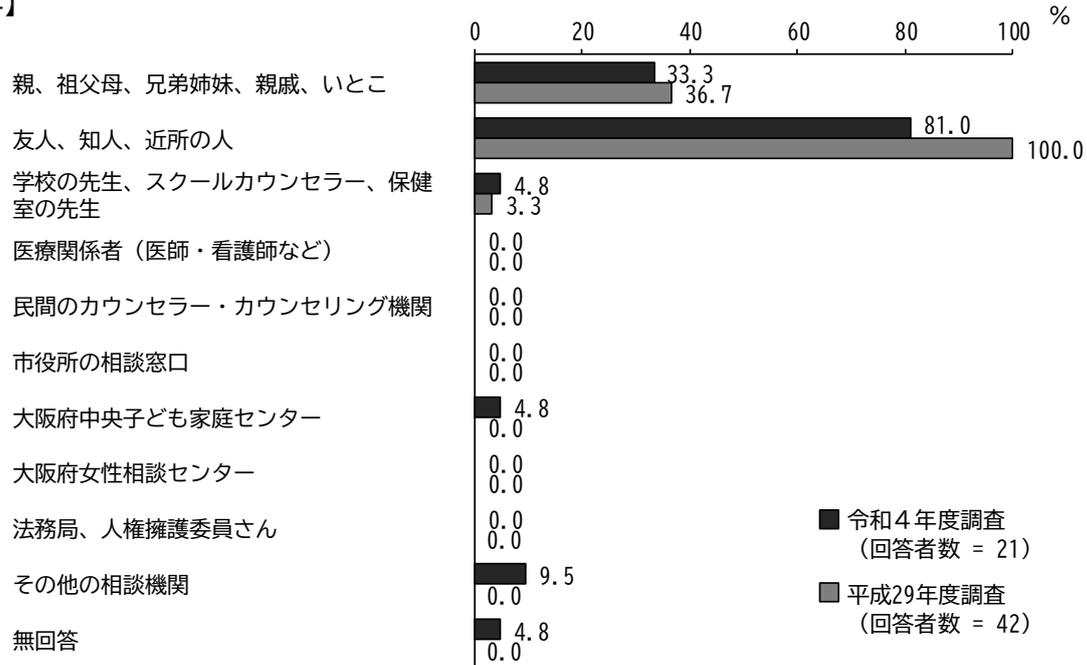
問16-① 【問16で1.「相談した」と答えた人に聞きます。】

それは誰（どこ）に相談しましたか。（あてはまるものすべてに○）

「友人、知人、近所の人」の割合が81.0%と最も高く、次いで「親、祖父母、兄弟姉妹、親戚、いとこ」の割合が33.3%となっています。

平成29年度調査と比較すると、「その他の相談機関」の割合が増加しています。一方、「友人、知人、近所の人」の割合が減少しています。

【経年】



【性別】

性別で見ると、男性に比べ女性で「親、祖父母、兄弟姉妹、親戚、いとこ」の割合が高くなっています。

単位：%

区分	N (件)	親、祖父母、兄弟姉妹、親戚、いとこ	友人、知人、近所の人	学校の先生、スクールカウンセラー、保健室の先生	医療関係者（医師・看護師など）	民間のカウンセラー・カウンセリング機関	市役所の相談窓口	大阪府中央子ども家庭センター	大阪府女性相談センター	法務局、人権擁護委員さん	その他の相談機関	無回答
全体	21	33.3	81.0	4.8	-	-	-	4.8	-	-	9.5	4.8
女性	10	40.0	80.0	10.0	-	-	-	10.0	-	-	20.0	-
男性	11	27.3	81.8	-	-	-	-	-	-	-	-	9.1

高校生 問16-① その他回答

警察

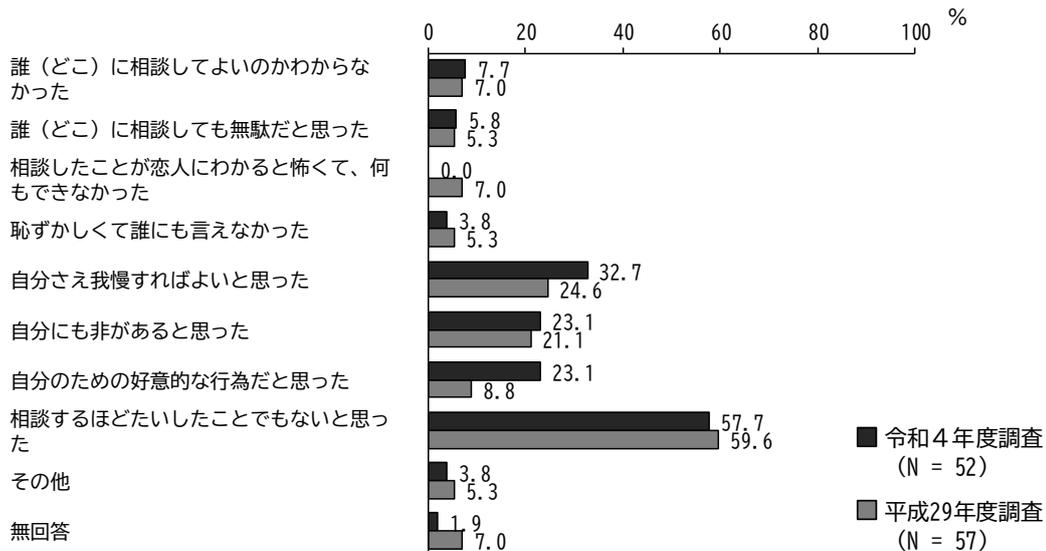
問16-② 【問16で「2.相談しなかった」と答えた人に聞きます。】

それはなぜですか。(あてはまるものすべてに○)

「相談するほどたいしたことでもないと思った」の割合が57.7%と最も高く、次いで「自分さえ我慢すればよいと思った」の割合が32.7%、「自分にも非があると思った」、「自分のための好意的な行為だと思った」の割合が23.1%となっています。

平成29年度調査と比較すると、「自分さえ我慢すればよいと思った」、「自分のための好意的な行為だと思った」の割合が増加しています。一方、「相談したことが恋人にわかると怖くて、何もできなかった」の割合が減少しています。

【経年】



【性別】

性別で見ると、男性に比べ女性で「誰(どこ)に相談してよいのかわからなかった」の割合が高くなっています。

単位：%

区分	N (件)	誰(どこ)に相談してよいのかわからなかった	誰(どこ)に相談しても無駄だと思った	相談したことが恋人にわかると怖くて、何もできなかった	恥ずかしくて誰にも言えなかった	自分さえ我慢すればよいと思った	自分にも非があると思った	自分のための好意的な行為だと思った	相談するほどたいしたことでもないと思った	その他	無回答
全体	52	7.7	5.8	—	3.8	32.7	23.1	23.1	57.7	3.8	1.9
女性	22	13.6	4.5	—	4.5	36.4	27.3	18.2	59.1	4.5	—
男性	27	3.7	7.4	—	—	29.6	18.5	25.9	55.6	3.7	3.7

高校生 問16-② その他回答

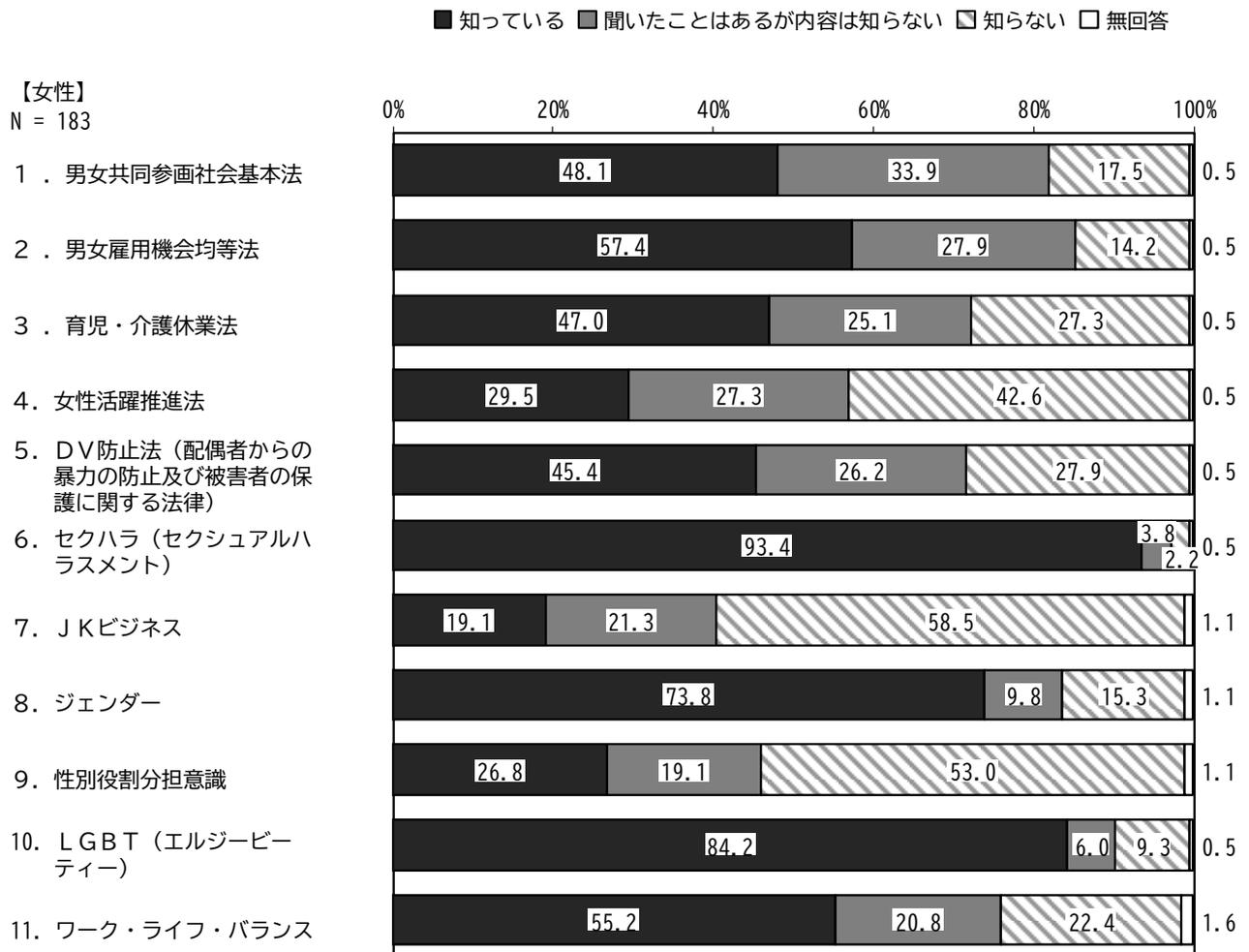
自分だけに非があった。

相談することがめんどくさい

4 用語について

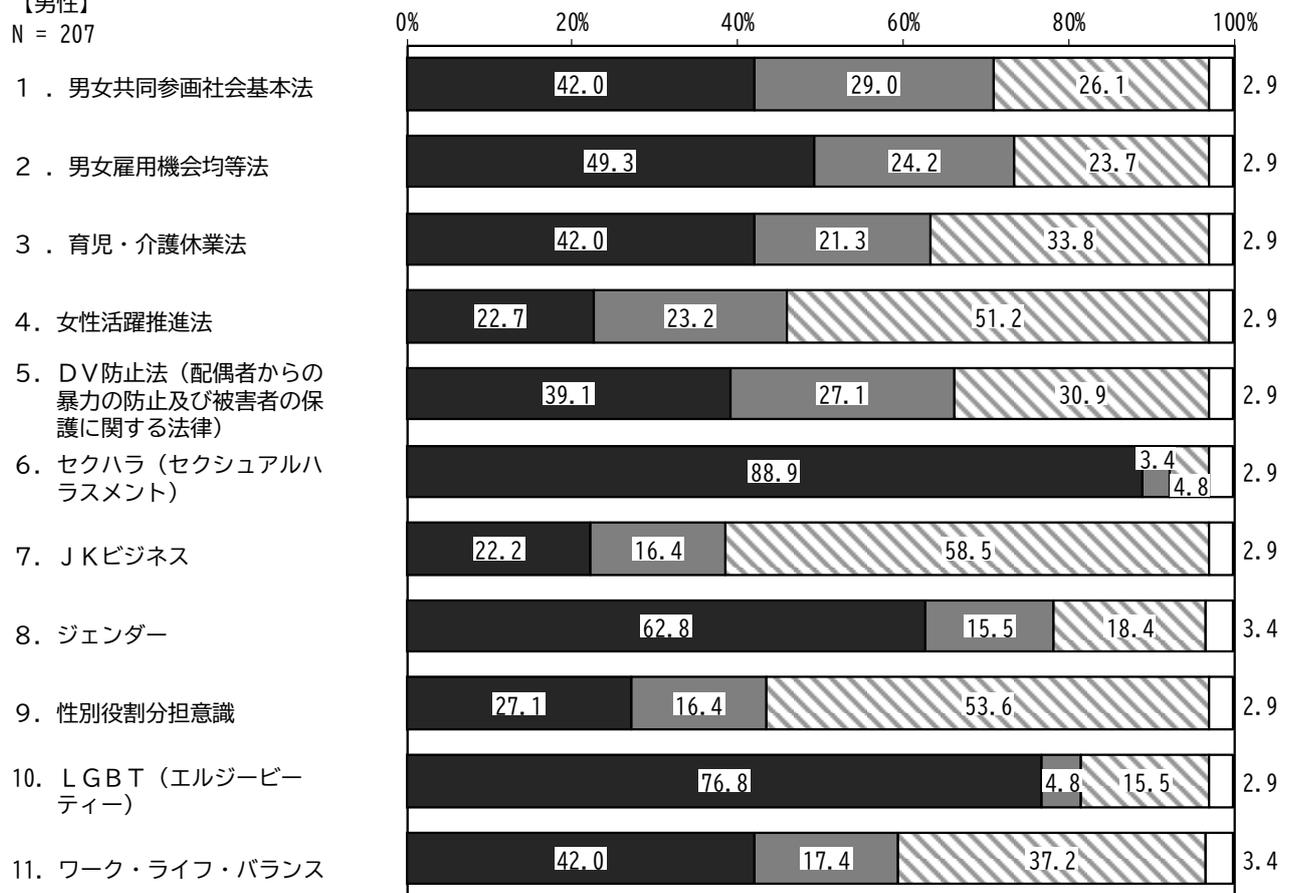
問17 あなたは、次の言葉について知っていますか（それぞれあてはまるもの1つに○）

性別に関わらず、同様の傾向となっており、『6. セクハラ（セクシュアルハラスメント）』、『8. ジェンダー』、『10. LGBT（エルジービーティー）』で「知っている」の割合が高くなっています。また、『7. JKビジネス』で「知らない」の割合が高くなっています。



■ 知っている ■ 聞いたことはあるが内容は知らない ▨ 知らない □ 無回答

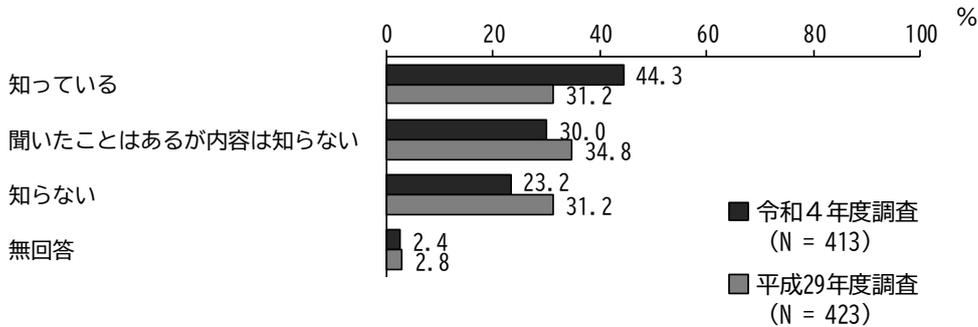
【男性】
N = 207



1. 男女共同参画社会基本法

「知っている」の割合が44.3%と最も高く、次いで「聞いたことはあるが内容は知らない」の割合が30.0%、「知らない」の割合が23.2%となっています。

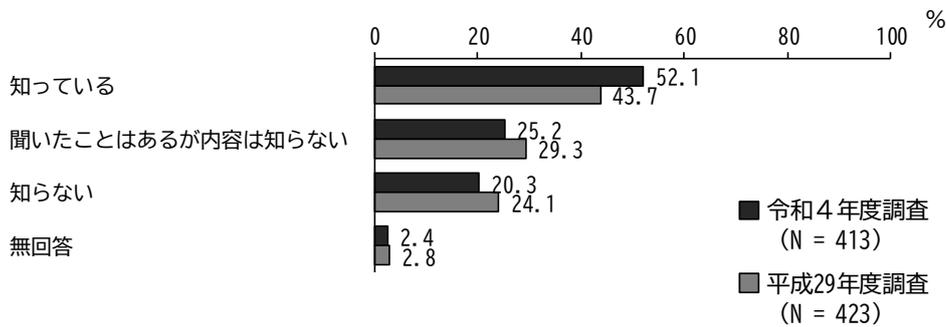
平成29年度調査と比較すると、「知っている」の割合が増加しています。一方、「知らない」の割合が減少しています。



2. 男女雇用機会均等法

「知っている」の割合が52.1%と最も高く、次いで「聞いたことはあるが内容は知らない」の割合が25.2%、「知らない」の割合が20.3%となっています。

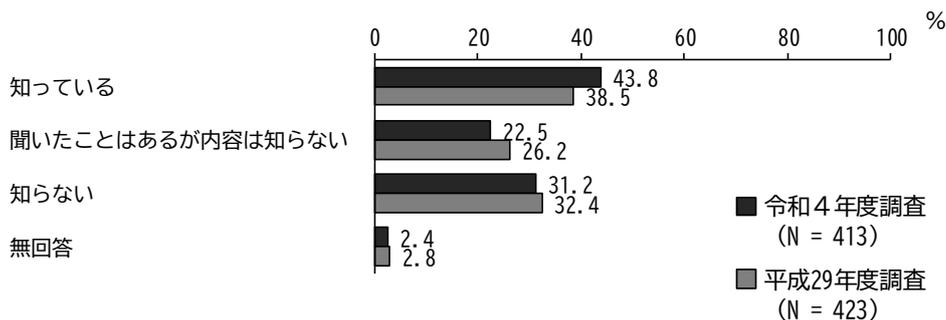
平成29年度調査と比較すると、「知っている」の割合が増加しています。



3. 育児・介護休業法

「知っている」の割合が43.8%と最も高く、次いで「知らない」の割合が31.2%、「聞いたことはあるが内容は知らない」の割合が22.5%となっています。

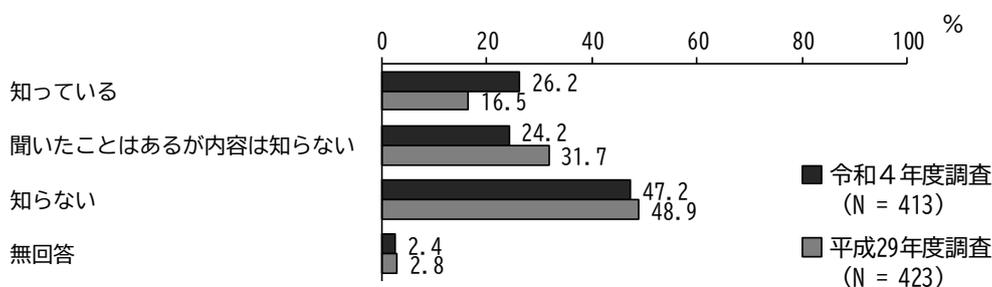
平成29年度調査と比較すると、「知っている」の割合が増加しています。



4. 女性活躍推進法

「知らない」の割合が47.2%と最も高く、次いで「知っている」の割合が26.2%、「聞いたことはあるが内容は知らない」の割合が24.2%となっています。

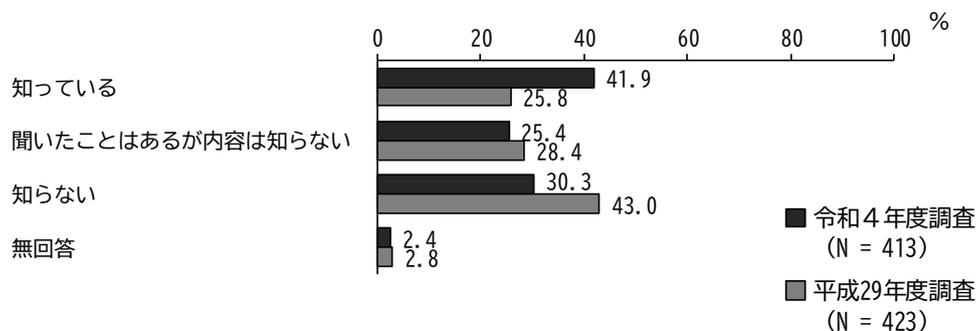
平成29年度調査と比較すると、「知っている」の割合が増加しています。一方、「聞いたことはあるが内容は知らない」の割合が減少しています。



5. DV防止法（配偶者からの暴力の防止及び被害者の保護に関する法律）

「知っている」の割合が41.9%と最も高く、次いで「知らない」の割合が30.3%、「聞いたことはあるが内容は知らない」の割合が25.4%となっています。

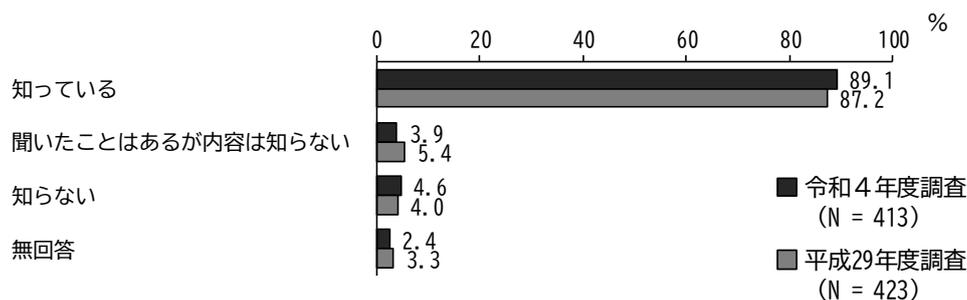
平成29年度調査と比較すると、「知っている」の割合が増加しています。一方、「知らない」の割合が減少しています。



6. セクハラ（セクシュアル ハラスメント）

「知っている」の割合が89.1%と最も高くなっています。

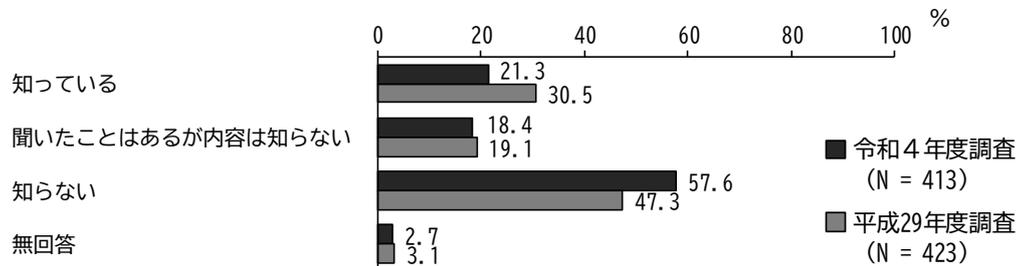
平成29年度調査と比較すると、大きな変化はみられません。



7. JKビジネス

「知らない」の割合が57.6%と最も高く、次いで「知っている」の割合が21.3%、「聞いたことはあるが内容は知らない」の割合が18.4%となっています。

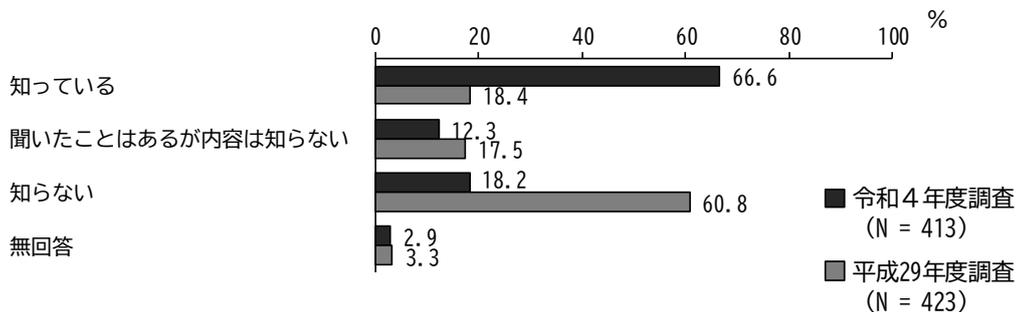
平成29年度調査と比較すると、「知らない」の割合が増加しています。一方、「知っている」の割合が減少しています。



8. ジェンダー

「知っている」の割合が66.6%と最も高く、次いで「知らない」の割合が18.2%、「聞いたことはあるが内容は知らない」の割合が12.3%となっています。

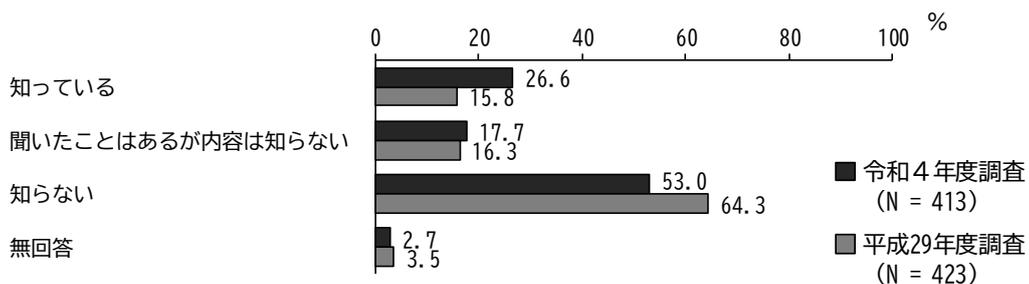
平成29年度調査と比較すると、「知っている」の割合が増加しています。一方、「聞いたことはあるが内容は知らない」、「知らない」の割合が減少しています。



9. 性別役割分担意識

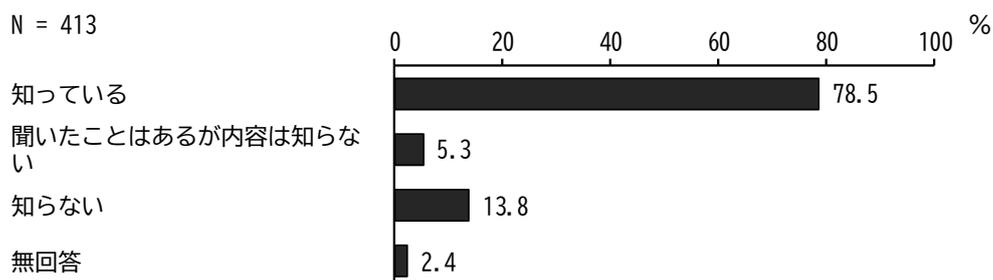
「知らない」の割合が53.0%と最も高く、次いで「知っている」の割合が26.6%、「聞いたことはあるが内容は知らない」の割合が17.7%となっています。

平成29年度調査と比較すると、「知っている」の割合が増加しています。一方、「知らない」の割合が減少しています。



10. LGBT（エルジービーティー）

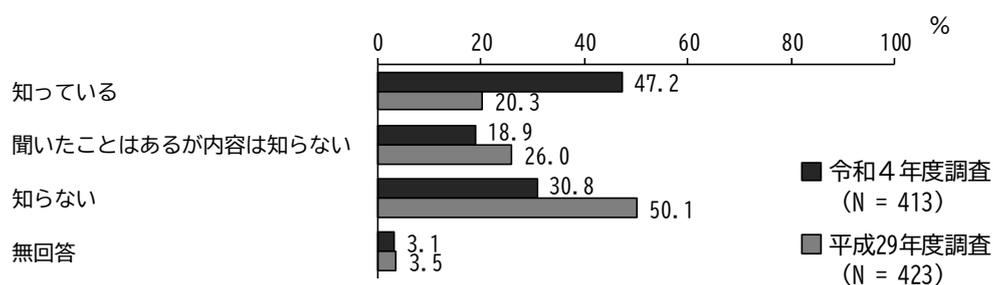
「知っている」の割合が78.5%と最も高く、次いで「知らない」の割合が13.8%となっています。



11. ワーク・ライフ・バランス

「知っている」の割合が47.2%と最も高く、次いで「知らない」の割合が30.8%、「聞いたことはあるが内容は知らない」の割合が18.9%となっています。

平成29年度調査と比較すると、「知っている」の割合が増加しています。一方、「聞いたことはあるが内容は知らない」、「知らない」の割合が減少しています。



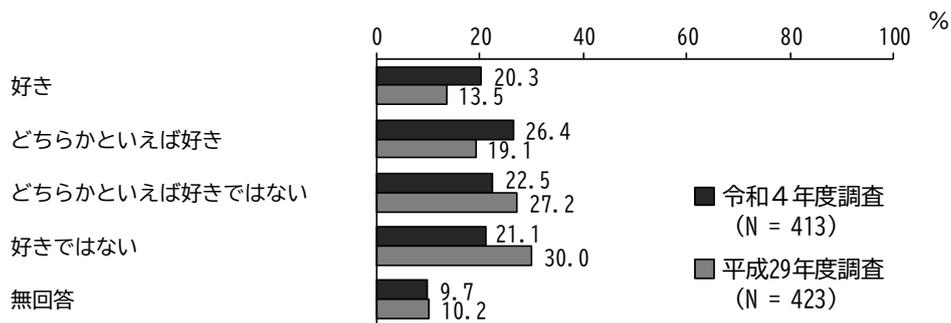
5 自分への評価について

問 18 あなたは、自分のことが好きですか。(あてはまるもの1つに○)

「どちらかといえば好き」の割合が 26.4%と最も高く、次いで「どちらかといえば好きではない」の割合が 22.5%、「好きではない」の割合が 21.1%となっています。

平成 29 年度調査と比較すると、「好き」「どちらかといえば好き」の割合が増加しています。一方、「好きではない」の割合が減少しています。

【経年】



【性別】

性別でみると、男性に比べ女性で「好き」の割合が低くなっています。

単位：%

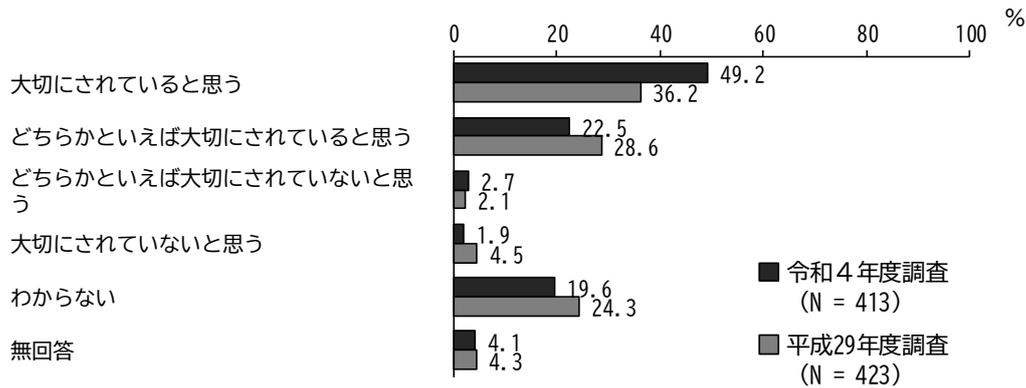
区分	N (件)	好き	どちらかといえば好き	どちらかといえば好きではない	好きではない	無回答
全体	413	20.3	26.4	22.5	21.1	9.7
女性	183	14.8	26.8	27.3	24.0	7.1
男性	207	23.7	27.5	19.8	18.4	10.6

問 19 あなたは、周りのおとなから大切にされていると思いますか。(あてはまるもの1つに○)

「大切にされていると思う」の割合が49.2%と最も高く、次いで「どちらかといえば大切にされていると思う」の割合が22.5%、「わからない」の割合が19.6%となっています。

平成29年度調査と比較すると、「大切にされていると思う」の割合が増加しています。一方、「どちらかといえば大切にされていると思う」の割合が減少しています。

【経年】



【性別】

性別でみると、男性に比べ女性で「大切にされていると思う」の割合が高くなっています。

単位：%

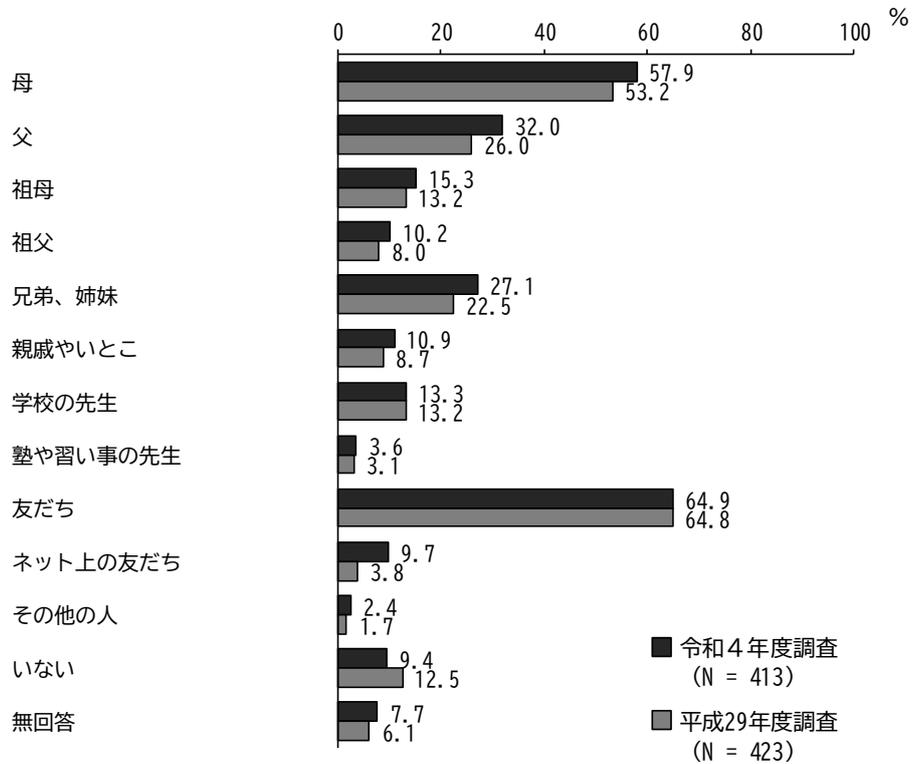
区分	N (件)	大切にされていると思う	どちらかといえば大切にされていると思う	どちらかといえば大切にされていないと思う	大切にされていないと思う	わからない	無回答
全体	413	49.2	22.5	2.7	1.9	19.6	4.1
女性	183	57.9	18.0	4.4	2.7	13.1	3.8
男性	207	43.0	27.1	1.4	1.4	23.7	3.4

問 20 あなたに悩みや心配事がある時、相談できる人はいますか。(あてはまるものすべてに○)

「友だち」の割合が64.9%と最も高く、次いで「母」の割合が57.9%、「父」の割合が32.0%となっています。

平成29年度調査と比較すると、「父」「ネット上の友だち」の割合が増加しています。

【経年】



【性別】

性別で見ると、女性に比べ男性で「父」の割合が高くなっています。

単位：%

区分	N (件)	母	父	祖母	祖父	兄弟、姉妹	親戚やいとこ	学校の先生	塾や習い事の先生	友だち	ネット上の友だち	その他の人	いない	無回答
全体	413	57.9	32.0	15.3	10.2	27.1	10.9	13.3	3.6	64.9	9.7	2.4	9.4	7.7
女性	183	59.6	24.6	12.6	6.6	30.1	8.7	11.5	1.6	66.1	7.7	1.1	8.7	6.0
男性	207	58.0	40.6	17.9	13.5	25.1	12.6	15.9	5.8	66.7	10.6	3.4	9.2	8.7

高校生 問 20 その他回答
恋人
バイト先の人
いろんな人

その他4件

6 自由記入

問 21 男性と女性が性別に関わりなく、お互いを支え認め合い、一人ひとりが得意なことをいかして社会で活躍していくために、あなたは「学校」「家庭」でなにができると思いますか。

高校生 問 21
考え方を平等にする。
お互いの出来ることを助け合ってできないことを支えてあげる。
ネットで調べる。
各家庭で父母が協力して、学校も生徒ひとりひとり向き合っていけばいいと思う。
各々が得意なことを生かして、その趣味などを促進していくことが大切だと思った。
いろいろな人と関係を持って、様々な意見を知ることがとても大切だということがわかりました。
人のことを否定しない。
学校では男女関係なく進路について、できるだけ多い選択肢を増やす。
学校でも、家庭でも積極的に活動したり、お話することで社会にでるための準備が少しでも出来ると思います。
委員会とか決めるときに、男女1ずつで選ぶとかを学校でしないこと。家庭では得意分野で役割を分担する。
性別気にせずに努力して自信をつけたり、技能を身につけたり、生きがいを持っていくこと。
男性と女性関係なく、平等に接すること。
差別をなくす
小さい頃から意識をつける
自分中心で動かず周りを見ること
学校で色を2色に分けるのは、行けないと思う。(赤と青) 家庭でも「女やから」「男だから」という言葉は使ってはいけないと思う。
男女という区別をなくして人間とまとめる考え方を身につける。
男子だから、女子だからっていう概念をなくす。
学生の頃に男女差別をしてはいけないということを学び、大人になったときに実行できるように家庭でも親などから話を聞く。
個性を潰さない教育
子どものうちから、家事を役割分担し、すべての家事を自分で行えるようにする。
男女平等な環境をつくること。「男女差別」という言葉をなくすこと。
1人ひとりの意識の問題でなんでも変わると思う
男子校や女子校をなくす
私たち女性がやりたいと思ったことがあっても、社会がそれをしなければなにもかわらないと思う。男性は日ごろから家事を手伝ったほうがいいと思う。
学校で習った事を生かす以外ない
自分から行動していく。

男女共にコミュニケーションをとること
きちんと社会のことを学ぶ
「女はこう」「男だからこう」となくす。力仕事であっても、細かい作業より簡単だという女性もいるし、逆に細かい作業が得意な男性もいる。
もっとお互いをする
それでは個性を尊重すること
男性と女性でくべつされるのはしかたがない。どうしても女性より男性のほうが身体がつよいので、さべつはなくなる。
家庭では母と父、もしくは兄妹が平等に育てられていると自分で感じられるように親が気をつける。学校では、女性が男性の制服を来て認められるように、男性も女性の制服を着てもいわかんのないようにしたら平等な世界になると思う。
学校ではチームワークでの協力ができる。学校で色々な人と関わることでコミュニケーションが取れる。家庭では家事ができる、団らんができる。
どちらも同じ人間であり、男性の中にも女性的な面があり、女性の中にも男性的な面がある。双方は対して変わりがないということ。
学校での友だち付き合いや家庭での家族との付き合いの中で、一つ一つの発言に気をつける。
人を思いやる心…顔色をうかがうのではなく、心のどこかに相手のために何かしてあげようと思う気持ち。
学校や家庭で考えを巡らせて行動する
固定的な概念をすてること
男女が互いに接する機会をつくることで、尊重し合えるような空間をつくる
性別が違うだけで家事の分担を決めないこと。学校でも係や委員会を勝手に決めないこと。
学校に多分何もできない。女性教員が少なく見える。子供のための学びの場において、そもそも大人が「男女共同参画」できていない。
男女の格差をなくしていく
人だけでなく、動物、ものに毎日気をつかう。それがまわりまわって良くなっていくと思う。
学校も家庭も親がすべてであり、親の行動によって子供の人生は大きく左右されるので、最低限の道理はもっていてほしい。
女性と男性がそれぞれ異性に対して敬意をもつ。女だから…男だから…をできるだけさける。
家庭内では、いわゆる一般的な風習やしきたりは取り払い、学校内では男女の壁をなくし、男女ともに仲良くする。

その他 137 件